

平成 28 年度

# 事業報告書

《社会福祉法人ふたば会》

2025年を目標に地域包括ケアシステムの確立と持続可能性のある社会保障制度の構築を目指して、現在種々の制度改正等が行われている。

特に平成28年度は、社会福祉法改正による法人改革の対応準備をしておかなければならず、定款変更、評議員の再編成等を行い、経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上を図った。

この状況下で、当法人の事業経営においても、利用者減少により収入も減少傾向にあり、必要最小限の支出を前提として事業を実施した。特に、職員の配置については、全般的に必要な人員を充たすことができず、人材の確保が最重点課題となった。

特養ふたば荘においては、開設時からの課題であった進入路について、用地買収を行って、南北に接続していた既存農道の拡幅工事をし、道幅6.5mの進入路を敷設した。これにより、通行の安全が確保されると共に、利便性が向上し、今後の事業実施に相応の効果が期待できると思われる。

また、成年後見事業については、担当する職員の退職により、西条家裁との誓約要件を充たすことができず、12月末日をもって事業廃止となった。兼任していた在宅介護支援センターは人事異動で対応したが、地域包括ケアシステムや総合事業の実施に向けて支援センターの役割は重要且つ有益であるため、今後より重点的に事業実施をしていく。

そして、ふたばの森については、グループホームを除いて収支状況は赤字となっている。特養は入院者増による稼働率の低下、ショートステイは利用率は予算を上回ったが利用者介護度が低下して減収となった。デイサービスは、利用者の減員が大きく、大幅な収入減となった。事業内容としては、特養で介護ロボット助成金を受け、離床見守システム1台を導入した以外は経常活動に終始した。

全体としての課題は、財務状況の改善、利用者の獲得、職員の確保と例年同様の項目が挙げられる。財務状況において、人件費は処遇改善加算の関係で引き下げることができず、他の経費も経常的なものになっていることから、利用者獲得、職員配置の効率化が図れるかということが財務改善の重点と考えなければならない。

総括して、やはりサービスの質の向上と差別化を進めることが利用者の獲得のみならず、働きたいという魅力にもなり、職員の確保に繋がると考えられる。また、地域との関係も既存事業だけでなく、予防・生活支援も含めて積極的に関わっていくことがすべての改善に結びつくと考えている。

# 1.施設の概要

## 法人の沿革

昭和53年	8月	4日	社会福祉法人ふたば会設立
昭和54年	4月	5日	特別養護老人ホームふたば荘開設（定員50人）
昭和57年	4月	1日	特別養護老人ホームふたば荘定員80人変更開所
平成9年	4月	1日	デイサービスセンターふたば荘及び 在宅介護支援センターふたば荘事業開始
平成11年	10月	25日	居宅介護支援事業指定（3870500174）
平成12年	1月	5日	訪問入浴介護事業指定（3870500232）
平成12年	2月	25日	通所介護事業指定（3870500323）
平成12年	3月	17日	短期入所生活介護事業指定（3870500505）
平成12年	4月	1日	介護老人福祉施設指定（3870500570）
平成19年	9月	30日	訪問入浴介護事業廃止
平成23年	4月	19日	特別養護老人ホームふたばの森設置認可
平成23年	4月	22日	特別養護老人ホームふたばの森指定（3890500238）
		〃	グループホームふたばの森指定（3890500220）
平成23年	4月	28日	ショートステイふたばの森指定（3870502162）
		〃	デイサービスセンターふたばの森指定（3870502154）
平成23年	5月	1日	ふたばの森各事業所事業開始
平成27年	5月	31日	デイサービスセンターふたば荘事業休止

## 法人の土地・建物・定員

【所在地】 新居浜市船木字上原甲959番地1～4，962番地

【敷地面積】 15,402.27㎡

《特別養護老人ホームふたば荘》

（補助）

（建物構造） 鉄筋コンクリート造一部2階建

日本自転車振興会

（建物面積） 1,999.68㎡

193,220千円

（定員） 80人

新居浜市

15,000千円

《デイサービスセンターふたば荘》

（建物構造） 鉄骨造平屋建

（補助）

（建物面積） 396.25㎡

国庫補助

（定員） 35人

44,639千円

《在宅介護支援センターふたば荘》

(建物構造) 鉄骨造平屋建

(建物面積) 71.15㎡

県補助

22,319千円

新居浜市

14,870千円

【所在地】 新居浜市船木字元船木甲3101番地1、甲3102番地2、  
甲3098番地

【敷地面積】 4,552㎡

《特別養護老人ホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 1,903.82㎡

(定員) 29人

(補助)

新居浜市

177,975千円

《ショートステイふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 496.44㎡

(定員) 16人

《デイサービスセンターふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 287.4㎡

(定員) 30人

【所在地】 新居浜市船木字元船木甲2999番地7、甲3001番地3

【敷地面積】 999.37㎡

《グループホームふたばの森》

(建物構造) 鉄骨造2階建

(建物面積) 665.85㎡

(定員) 18人

(補助)

新居浜市

52,612千円

## 2. 職員現員

### ふたば荘

(平成29年3月31日現在)

職員部門	特養 (ショート含)	デイサービス	支援センター	居宅介護	合計
施設長	1				1
総務副部長	1				1
事務員	2<1>				2<1>
生活相談員	2<1>				2<1>
業務部長	1<1>				1<1>
機能訓練指導員	1				1
ソーシャルワーカー			1<1>		1<1>
介護支援専門員	1<1>			4	5<1>
介護部長	1				1
主任介護職員	2<1>				2<1>
介護職員	33(6)【8】				33(6)【8】
医師(嘱託)	3(3)				3(3)
看護職員	4(1)				4(1)
栄養士	2(1)<1>				2(1)<1>
調理員	9(1)【1】				9(1)【1】
合計	60(12)【9】<4>		1<1>	4	64(12)【9】<4>
【業務委託】					
運転手					
宿直員	3				3
介助員					
清掃員	1				1
合計	4				4

※ ( ) 嘱託      【 】 パート      < > 兼務

# ふたばの森

(平成29年3月31日現在)

職員部門	特養	デイサービス	ショート	グループホーム	合計
施設長	1				1
事務員	1<1>				1<1>
生活相談員	3<2>	3<2>	2<1>		5<2>
管理者				1	1
機能訓練指導員		1			1
介護支援専門員	1<1>				1<1>
介護職員	16(2)	7(1)<1>	7	15(1)【3】	45(4)【3】<1>
医師(嘱託)	3(3)				3(3)
看護職員	5<1>【1】	2<1>		1<1>	7<1>
栄養士	1				1
合計	29(5)<5>【1】	11(1)<3>	8<1>	15(1)【3】<1>	63(6)【4】<9>
【業務委託】					
宿直員	3				3
調理員	6				6
清掃員	2				2
合計	11				11

※ ( ) 嘱託      【 】 パート      < > 兼務

特別養護老人ホーム  
短期入所生活介護事業所  
デイサービスセンター  
在宅介護支援センター  
居宅介護支援事業所

ふたば荘

# 特別養護老人ホームふたば荘

## 1. 総務及び経理

### 総合目標及び課題

事務の効率化及び適切な予算管理に努めた。また、職員の定着についても取り組みを実施したが、継続して行うことが出来なかった。

目標及び課題	成果等
(1) 事務処理の効率化	① 労務関係の事務手続きについては、適時行った。 ② 消耗品・備品等の発注業務については、適時行えた。
(2) 介護報酬改定への対応及び予算管理の適切な執行	① ふたば荘進入路については、用地買収・道路拡幅工事を事業費約3,983万円で実施し、平成29年2月28日より供用開始した。 ② 介護ロボットの導入については、非接触型見守り装置を計画していたが、予算規模縮小により実施できなかった。 ③ 電力購入業者について、検討したが次年度以降の課題となった。
(3) 労働衛生の充実	ストレスチェックを実施し、高ストレス者については、産業医から健康アドバイスを実施した。
(4) 職員の定着・処遇改善	エルダー制度・業務改善・100回帳など取り組みを実施したが、定着することができなかった。次年度以降の検討課題となった。
(5) 社会福祉法人制度改革の対応	関係法令に基づき、管理体制の見直し、情報公開を行った。
(6) 特定個人情報の取扱	特定個人情報の取扱については、規定どおりの取扱を行った。

## 2. 相談及び援助

### 総合目標及び課題

利用者がその人らしい生活を送れるよう、多職種や家族・地域と連携・協働してサービスが提供できるよう努めた。

目標及び課題	成果等
<p>(1) 特養入所の稼働率の維持・向上のための取り組み</p> <p>(2) 入退所の迅速な支援と対応</p> <p>(3) 看取り介護への積極的な取り組み</p>	<p>① 平成28年度目標の特養平均稼働率96.25%（77名）に対して特養平均稼働率96.6%（77.3名）の実績となり、目標を達成する事ができた。要因としては、入院者の増減に伴うショートステイ予約確保の柔軟な対応。また、退所者発生に伴う新規利用者の迅速な受入によるものである。</p> <p>① 短期間での頻回な退所に対して、迅速な新規入所に繋げる事ができた。その結果空床期間を短期化する結果となった。しかし入所申込み者が激減している事もあり、3ヶ月に1度、入所判定委員会を開催し、待機順位を決定しているが、臨時の入所判定委員会を3回開催した。今後は入所申込み者を増やす為の取り組みが必要である。</p> <p>② 受診等の際に、入院者の状況把握に努め、適切な退院支援を行う事はできたが、施設での健康管理、医療対応については主治医及び看護職員との協議、調整が次年度以降の課題となる。</p> <p>③ 申請者等から希望があれば、施設見学や事前説明を丁寧に実施した。看取りの人が発生した場合には、入所待機者の上位の人には本施設に入所の意思がある事を確認して、事前の調整を行った。</p> <p>④ 退所の発生が予測可能な段階では、待機者に対して状況確認を行えたが、意思確認直前で他施設に入所された場合も多く、より細かい状況確認が必要であると感じた。</p> <p>⑤ 体調不良者に対しては、看護職員から情報提供を受け、家族への情報提供や意思確認を行う事ができた。</p> <p>入所契約の際に、契約者に看取り指針について説明を行い、終末期を迎えたい場所、終末期の積極的な医療を望まれるか、心停止・呼吸停止時の蘇生及び緊急搬送を望まれるかについて確認するようにした。</p>

<p>(4) 短期入所生活介護の稼働率の維持・向上への取り組み</p>	<p>ショート利用人数は、ショート4床に加え、空床利用1床を合わせて、5.0人/日(155人/31日)の目標に対して4.87人/日の実績であった。今後は、家族への満足度を益々向上させる事で、再度利用、利用期間の延長、新規利用者を増加に努めた。</p>
<p>(5) 特養申込者・短期入所利用者増加への取り組み</p>	<p>入所申込者及びショートステイ利用者の増加を目標に、アピールポイントや申込・空床状況を周知する為の広報活動に取り組みを行った。 月に1回、居宅介護支援事業所を訪問し、パンフレットや利用状況について文書を配布及び口頭説明を行った。</p>
<p>(6) 苦情・相談受付</p>	<p>① 相談・苦情を受け付けた際には、直ちに状況の確認を行い、利用者・家族に正確な説明が行い対応した。 ② 年に1度、第三者委員を交えた懇談会を開催し、内容の振り返りにて外部からの意見を参考にする事で、より良いサービス提供に繋げた。 ③ 「ふたば荘ショートステイのご案内」資料にて、介護者の家庭の突発的な相談(病気・仕事・外泊等)に配慮できるよう各居宅へ配布・宣伝活動を行った。</p>
<p>(7) 事故発生時の対応</p>	<p>① 事故発生時には状況の確認を行い、早急に家族に報告を行った。 ② 事故により病院受診の必要が考えられる場合には、看護職員、家族と相談し、受診等の迅速な対応を行った。</p>
<p>(8) 社会資源を活用したボランティアの受け入れ</p>	<p>ふたばクラブ21の活動や個別ボランティアに対しての受入は行えており、ボランティア手帳の活用にも繋げる事ができた。</p>
<p>(9) 利用者・家族・施設間の円滑な支援と調整</p>	<p>① 利用者の生活を第一に考え、家族の協力が必要な場合は、連絡調整を行いながら支援し、要望を実現しながら信頼関係の向上に努めた。 ② 家族会を年2回開催し、家族に施設サービスについて説明し、理解・了承を頂いた。家族から受けた意見・要望等については、サービス向上への取り組みに繋げた。</p>

### 3. 介 護

#### 総合目標及び課題

- ・各種研修や学習会に参加することで、個人のスキルを高めた。安心と満足を実感していただけるような介護サービスを目指した。
- ・一人ひとりのニーズに沿った個別行事・外出などを実施した。少しでも楽しみのある施設生活を送って頂ける様に計画した。

目標及び課題	成果等
<p>(1) 個別ケアの充実</p> <p>(2) 統一したサービス支援の提供</p> <p>(3) 楽しみに向けての取り組み</p> <p>(4) 接遇の共通認識</p>	<p>カンファレンスには、出来るだけご家族の参加をお願いして、一人ひとりの要望を聞き入れて計画するように努めた。</p> <p>① 夜勤から日勤へ、日勤から夜勤へ引き継ぎ記録を活用した。引き継ぎが十分に出来ていない事もあり、今後の課題となった。</p> <p>② 利用者の状況を見ながら、部署会にて個別の対応について検討した。体位交換など統一した処遇が必要な場合は、写真などを掲載し情報共有に努めた。</p> <p>季節行事は、体調の落ち着いた利用者が全員参加出来る様に計画した。また、外出して買い物をしたり、外食など定期的の実施した。希望される利用者には、ヘアカラーやマニキュアなどの美容を実施しました。また、おやつやパンの訪問販売時には、健康管理上問題のない範囲内で、購入して頂いた。</p> <p>利用者、ご家族、来荘者、職員同士など、笑顔で挨拶し対応していくように啓発活動を実施した。今後継続して、「笑顔で挨拶」を職員全員が出来る様に啓発活動を計画した。</p>

#### ・すみれグループ

<p>「～心寄り添い笑顔咲く～」をスローガンとし、次のことを具体的に取り組みました。</p>	<p>① グループ利用者全員とのコミュニケーションを取るよう努力したが、特定の利用者の対応に迫られ、口数の少ない利用者やベッドでの生活が中心の利用者の対応が後回しになることがあった。</p> <p>② 買い物、外食等個別での行事を毎月実施することができたが、外出が困難な利用者の個別での行事がほとんど実施出来なかった。</p>
--	---

	<p>③ 気を付けてはいたが、定期的実施することが出来ず、タンスや床頭台の整理整頓が十分できていないことが多々あった。</p> <p>④ 日々のケアの中で異変があれば、医務に報告し指示を受けることで早期発見、早期対応を実施する事ができた。</p> <p>⑤ 看取り対応の利用者へのケアは、医務、他職種と連携を図り対応する事が出来たが、内容は画一的であった。</p>
--	--

・たんぽぽグループ

<p>スローガンを『笑顔で満足！共に感動！』とし、次のことを具体的に取り組みました。</p>	<p>① リビングでの利用者の座席など工夫をしながら、利用者同士での馴染みの関係作りに努めた。職員も利用者と一緒に寄り添い話をする時間を持ったが、業務が優先になり、関わりが十分ではない事もあった。</p> <p>② 利用者の日々の変化を観察し、ケース記録に入力を実施した。情報を共有しながら、職員同士で意見を交換するなどし、意思疎通の難しい利用者の思いも感じ取るよう努めた。ケアプランに活かせる用、カンファレンス前には職員同士が話をする事が出来ていた。今後は、ケアプランに添った対応を継続して行っていく事が大切であると感じた。</p> <p>③ マンパワー不足と業務が優先になり、定期的なおやつ作りを行う事が出来なかった。他グループと協働でクッキングを行ったが、十分な回数を行うことが出来なかった。</p> <p>④ 荘内行事には、多くの利用者が参加できた。職員も一緒に楽しむ事により、行事を通しての気付きやコミュニケーションを取る事が出来た。</p> <p>⑤ ADLの維持・向上を目指し、歩行訓練や立位保持訓練を実施した。日常生活動作を模倣したりしながら自分で出来る事をしてもらえるよう取り組んだ。また、やる気のでるような声掛けなども工夫した。日中は、殆どの利用者が起きてリビングにて過ごし、夜間の良眠にも繋げる事が出来た。</p> <p>⑥ 日中・夜間共に、利用者の様子を観察。変化に気付いた時には、ケース入力・看護職員に報告し早期に対応出来るよう連携出来ていた。</p>
--	---

・ひまわりグループ

<p>「笑顔の輪～広げよう～」をスローガンとし、次のことを具体的に取り組みました。</p>	<p>① 職員が時間をつくり、ご家族、利用者の方の気持ちをくみ取れる様傾聴の時間をつくる事に心掛けた対応をした。</p> <p>② 施設行事に対しての参加を促し、グループ利用者取り組んでいきました。しかし、マンパワーが不足している時には、一人ひとりの要望通りの支援を行う事はできなかった。</p> <p>③ 担当職員がその人に合った長期目標を作成し、グループ間で連携を取る事によって、利用者のADLを把握する事ができ一丸となって取り組む事が出来ました。その結果、自分から進んで長期目標に取り組む方も出てきた。</p> <p>④ 一人ひとりの方との時間を、大切に関わる様努めました。利用者の方の満足のいく結果は得られなかった。</p> <p>⑤ 利用者の日々の生活に目を配り体調の変化を見極め、看護職員との連携により早期発見・対応に努めた。</p>
---	---

## 4. 厨房

総合目標及び課題

- ・利用者が、健康で安定した生活が送れるよう、適切で安全な食事の提供に努めた。
- ・食べることの楽しみと満足をしていただける、美味しい食事の提供に努めた。

目標及び課題	成果等
<p>(1) 栄養ケアの実践</p>	<p>個々のニーズに応じた栄養ケアプランを実践し、栄養状態が向上することにより、健康状態が安定し、日々の生活を維持することができた。反面、高齢のため消化、吸収機能が低下し、栄養状態が上がらず体調に変化をきたす等の課題もあり、今後もより細やかな栄養ケアプランを実践することが課題となった。</p>
<p>(2) 摂食、嚥下機能に応じた食事の提供</p>	<p>摂食、嚥下機能はできる限り維持できるよう口腔ケアを実施しているが、口腔機能は年齢とともに変化し、誤嚥のリスクも高くなるため、個々にあった食形態で、安全で無理なく摂取できる食事の提供を行った。</p>

<p>(3) 楽しみのあるおいしい食事の提供</p>	<p>毎月の楽しみである行事食や旬の新鮮な食材を使い、味にこだわった手作りの食事、肉料理や魚料理等が選択できる食事の提供を行った。</p>
<p>(4) 安全な食事の提供</p>	<p>食材の温度管理や衛生的な取り扱いに留意し、食中毒などを起こさないよう徹底した。</p>

## 5. 機能訓練

### 総合目標及び課題

- ・利用者の心身の諸機能の維持回復を図るため、各々個別訓練計画書を作成し、その計画に基づき各専門職との協働により実践に努めた。
- ・介護力向上講習会の継続として、科学的介護実践に基づき利用者の自立支援のため実践に努めた。

目標及び課題	成果等
<p>(1) 生活リハビリの充実</p>	<p>① 利用者全員の心身の定期定な評価を実施し、ケアプラン策定時に心身の状況から具体的協働内容の提示を実施しており、今年からアセスメントの変更に伴って身体機能の評価、認知機能の評価を実施した。</p> <p>② 個別機能訓練実施後の中間報告として、3ヶ月ごとに利用者及び家族に対し口頭又は書面（郵送）で説明の実施をしており、その際は、施設ケアマネにも状況の確認を行い、協働を働きかけることを継続して実施した。</p> <p>③ 重点的な医学的リハビリに関しては、かかりつけ医（主治医）の指導管理の下リハビリテーションを実施しするため受診に同行した。具体的な注意点などの指導を受けられたため、今後も継続したい。</p>
<p>(2) 「活動」「参加」の要素を取り入れたアプローチの実践及び、医療機関の連携を図る。</p>	<p>本年度も毎月1名程度の利用者に対し、外出行為（買い物・外食、社会参加など）を継続しながら利用者の望むニーズに対応していき、参加した利用者からは好評で喜ばれたが、後半はインフルエンザ予防のため冬期の参加は不十分であった。</p>
<p>(3) 福祉用具の活用において適正評価及び安全に使用されているか確認を行い故障時には速やかに対応</p>	<p>福祉用具の活用については、カンファレンスで検討し、ケアプランに反映させていったが、個人の所有物管理は不十分と認識。また、福祉用具の修理費用については、事故防止委員会の中で報告し安全に使用し、無駄な軽費の削減に取り組んでいったが、介護職員の中に浸透にせず不十分であった。</p>

<p>(4) 身体拘束者に対し、身体拘束解除に向けて、委員会との連携、身体的、精神的弊害の除去に図る。</p>	<p>現在、身体拘束2名のミトン使用者に対し、リハビリの視点から解除、または、弊害の除去に努めた。結果1名は拘束時間帯の削減が可能になり、もう1名は入院中となった。</p>
---	--

## 6. 健康管理

### 総合目標及び課題

- ・利用者の疾病を理解し、安心出来る居心地の良い場所を提供し、安心して満足な生活が送れるよう嘱託医と連携し、健康状態の維持や悪化予防に努めた。
- ・看取りにおいては、住み慣れた施設で最期を迎えたいと思う利用者やその家族の思いと、最期までその人らしい暮らしを支え、看取りたいと願う職員の思いを大切にしながら利用者一人ひとりの尊厳を守り、命に向き合い穏やかな最期を看取れるように努めた。

目標及び課題	成果等
(1) 日常生活の健康管理	<p>① 年2回の健康診断にて異常の早期発見や悪化防止に努めた。</p> <p>② 利用者や家族の希望により専門医受診に対応し、早期治療に努めた。</p>
(2) 他職種との連携	<p>朝礼にて利用者の夜間の状況把握に努め、状態の悪化を予測し、早期対応に努めた。</p>
(3) 薬剤・投薬の適切な管理	<p>服薬管理マニュアルに基づき、誤薬予防、誤薬時の早期対応に努めた。</p>
(4) 職員への医療教育	<p>感染、褥瘡、看取り、緊急時の対応についての内部研修を実施し、職員のスキルアップに努めた。</p>

7. 職員研修参加状況(ふたば荘)

月	日	内容	場所	出席者
4	26	県老協第1回総会・施設長研修会	松山	施設長1名
	28	第1回東予老協施設長研修・総会	湯ノ浦	施設長1名
5	16	第12回愛媛県老人福祉施設大会	松山	施設長1名、総務副部長1名、介護職員2名
	27	県在宅介護研修センターすぐに役立つ介護口座①	松山	介護主任1名
6	2~3	第65回四国老人福祉施設関係者研究大会	高知県	施設長1名、総務副部長1名、介護職員2名
	3	県在宅介護研修センターすぐに役立つ介護口座②	松山	介護主任1名
	10	県在宅介護研修センターすぐに役立つ介護口座③	松山	介護主任1名
	15	接遇・コミュニケーション研修会	松山	相談員1名
	17	県在宅介護研修センターすぐに役立つ介護口座④	松山	介護主任1名
	28	東予老協新任職員研修	四国中央	介護職員1名
7	2	えひめ排泄ケア研究会第1回地区別勉強会	市内	介護職員1名
	7	県老協第1回「福祉の職場」新任職員研修会	松山	介護職員1名
	8	第1回認知症ケア研修会	松山	介護職員1名
	13	第1回「福祉の職場」中堅職員研修	松山	介護主任1名
	14	第1回サービス向上研修	松山	相談員1名
	15	県老協ファシリテーション研修	松山	総務副部長1名、主任事務員1名
8	30	東予老協事務職員研修	松山	総務副部長1名
9	1	第3回サービス向上研修会	松山	総務副部長1名
	6	東予老協調理員研修	松山	調理員1名
	10	県老協職員連携研修会	松山	介護部長1名
10	3	東予老協介護支援専門員研修	湯ノ浦	介護主任1名、相談員1名
	13	第64回愛媛県社会福祉大会	松山	介護部長1名
	13	東予老協施設長と事務職員等との合同研修会	今治	施設長1名、主任事務員1名
	20	県在宅介護研修センター「介護現場における看護職の役割」	松山	看護職員1名
	25	県老協施設ケアマネジメント研修	松山	介護主任1名
	26	東予老協機能訓練指導員研修会	湯ノ浦	業務部長1名
11	14~17	第73回全国老人福祉施設大会	石川県	施設長1名
	21	第2回職員スキルアップ研修	市内	介護職員2名
12	2	東予老協栄養士研修会	松山	栄養管理部長1名
	3	県老協口腔ケア研修会	湯ノ浦	介護主任1名、看護職員1名
	6	東予老協介護職員研修	丹原	介護職員1名
	8~9	四国ブロックカンントリーミーティング	徳島県	介護職員1名
	16	支援が困ったときに求められるアプローチの研修	松山	相談員1名
1	4	社会福祉法人改革対策セミナー	松山	施設長1名
	14	住民参加による防災推進研修会	松山	施設長1名
	20	県老協ポジショニング研修会	松山	介護主任1名
	20	接遇講習会	松山	介護部長1名
	21~22	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会	松山	介護職員1名
	24	介護職員技術向上講習会(初級)	松山	介護職員1名
	24~25	全国老人福祉施設研究会議	長崎	相談員1名
	27	東予老協看護職員研修	湯ノ浦	看護職員1名
27	社会福祉法人制度改革対策セミナー	松山	施設長1名	
2	10	第2回認知症ケア研修会	松山	介護主任1名
	14	高齢者施設等における感染症(HIV感染症等)に関する研修会	松山	看護職員1名
	14	社会福祉法人監事監査研修会	松山	総務副部長1名
	14~15	第15回四国老協セミナー	高松	施設長1名
	18~19	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会	松山	介護職員1名
	21	県老協虐待防止研修会	松山	業務部長1名
3	2	第2回東予老協施設長研修会・総会	市内	施設長1名
	13	福祉・介護人材確保支援セミナー	松山	介護部長1名、主任事務員1名
	23	未来型厨房運営セミナー	岡山	栄養管理部長1名、総務副部長1名

## 8. 事業実施状況

月	保 健 衛 生	施 設 管 理	施 設 整 備 等	職 員 厚 生	そ の 他
4	/28 職員検便(45名) /28 調理員検便(10名)	/4 電気設備点検 /6 奉仕デー /15 暖房停止 /28 倉庫整理		/14 お花見【歓送迎会】(74名)	
5	/9~31 職員健康診断(62名) /31 調理員検便(10名) /12 寝具納品 /19 寝具引取	/6 奉仕デー			/10 避難訓練 /10 はあとねっと発行
6	/30 調理員検便(10名)	/15 空調設備清掃点検 /15 奉仕デー /15 全館ワックスがけ /15 冷房開始			/17 介護講座第1回 /29 内部学習会「食中毒防止に関する研修」
7	/29 調理員検便(10名)	/1 消防設備点検 /6 奉仕デー	/14 セントラルモニタ(DS-7780)更新	/15 ビール会(33名)	/8 はあとねっと発行 /26 内部学習会「接遇・コミュニケーション」 /22 介護講座第2回
8	/31 調理員検便(10名)	/2 奉仕デー /2 電気設備点検 /10 受水槽立ち入り検査	/27 相談員PC 更新		/2~3 新居浜ワークキャンプ(5名) /15 船木夏祭り
9	/20 結核健診レントゲン撮影(78名) /15 寝具納品 /29 寝具引取 /30 調理員検便(10名)	/7 奉仕デー /7 全館ワックスがけ /15 冷房停止	/16 スカイリフト 購入		/2 介護講座第3回 /9 はあとねっと発行 /21 内部学習会「看取りの研修会」
10	/11~31 職員健康診断(21名) /24 入居者健康診断(77名) /31 調理員検便(10名)	/12 奉仕デー			/4 介護講座第4回 /26 内部学習会「褥瘡予防に関する研修・施設ケアマネ
11	/16~30 インフルエンザ予防接種(職員58名入居者78名)	/2 奉仕デー /19 受水槽清掃 /16 電気設備点検 /15 暖房開始 /15 浄化槽清掃			/10 はあとねっと発行 /18 介護講座第5回 /22 総合避難訓練
12	/28 調理員検便(10名)	/7 奉仕デー /7 全館ワックスがけ /22 消防設備点検		/21 忘年会(78名) 永年勤続者表彰 (25年);1名 (20年);2名 (15年);3名 (10年);2名	
1	/31 調理員検便(10名)	/18 奉仕デー	/6 業務用マシン 更新		/10 はあとねっと発行 /27 内部学習会「感染症予防に関する研修・口腔ケ
2	/28 調理員検便(10名)	/6 電気設備点検 /8 奉仕デー			/24 内部学習会「虐待防止に関する研修」
3	/31 調理員検便(10名)	/8 奉仕デー /15 全館ワックスがけ	/30 電気温蔵庫(NB-11F)購入		/10 はあとねっと発行 /23 内部学習会「事故防止に関する研修」

## 9.特養利用者の概要

### (1)利用者の状況

平成29年3月31日現在

#### 保険者別入所状況

保険者別	男	女	計
新居浜市	19	50	69
西条市	1	0	1
四国中央市	1	4	5
今治市	0	2	2
松山市	0	1	1
宇和島市	0	1	1
大阪市	0	1	1
合計	21	59	80

介護保険法施行後入所した利用者は内80名となっている。(旧措置者は0名である。)

#### 在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0%
15年以上～20年未満	1	0	1	1.3%
10年以上～15年未満	0	5	5	6.3%
7年以上～10年未満	2	4	6	7.5%
5年以上～7年未満	3	6	9	11.2%
3年以上～5年未満	1	8	9	11.2%
1年以上～3年未満	10	22	32	40.0%
1年未満	5	14	19	23.8%
合 計	22	59	81	100.0%

利用期間が3年未満の方で全体の63.8%を占め、全利用者の平均利用期間は3.6年となっている。

#### 年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	2	4	1	1	5	4	4	0	21	79.5
女	1	1	2	8	15	10	16	6	59	85.6
合計	3	5	3	9	20	14	20	6	80	84.0

①90歳以上の利用者は全体の32.5%を占めており、平均年齢は約84.0歳となっている。

②最高齢者は、男性93歳、女性103歳で、最も若い利用者は、男性61歳、女性67歳である。

## 要介護度の状況

〔要介護度〕

介護度	年齢区分	自立	支援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	40～64歳	0	0	0	1	0	1	0	2	3.00
	65～69歳	0	0	0	1	0	1	2	4	4.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	1	0	1	4.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	1	0	1	4.00
	80～84歳	0	0	0	0	0	2	3	5	4.60
	85歳以上	0	0	0	0	3	3	2	8	3.88
女性	40～64歳	0	0	0	0	0	1	0	1	4.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	1	0	1	4.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	1	1	2	4.50
	75～79歳	0	0	0	0	2	4	2	8	4.00
	80～84歳	0	0	0	1	1	10	3	15	4.00
	85歳以上	0	0	0	0	13	7	12	32	3.97
	男 性	0	0	0	2	3	9	7	21	4.00
	女 性	0	0	0	1	16	24	18	59	4.00
	合 計	0	0	0	3	19	33	25	80	4.00
	前年度実績	0	0	0	4	11	36	27	79	4.06

利用者の要介護度は、5に認定された方が全体の31.3%を占めており、平均要介護度4.00 となっており、前年度実績4.06 から少し下がってる。

## (2)入退所状況

### 利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	7
女	2	0	0	0	1	1	3	2	1	1	2	1	14
計	2	1	1	1	2	2	4	2	2	1	2	1	21

〔入所前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	2	0	1	2	0	0	2	0	7
女	8	0	0	2	0	2	1	1	14
計	10	0	1	4	0	2	3	1	21

全利用者のうち52.4%の利用者の方が施設・病院等からの入所である。

〔新規利用者世帯状況〕

	単身	夫婦	未婚子同居	既婚子同居	その他	合計
男	3	1	1	2	0	7
女	4	3	0	7	0	14
計	7	4	1	9	0	21

退所者状況

〔退所理由〕

	家庭復帰	入院継続	転居	死亡(施設)	死亡(病院)	合計
男	0	1	2	5	1	9
女	0	0	0	9	1	10
計	0	1	2	14	2	19

〔月別退所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	2	1	1	1	0	3	0	1	0	0	0	9
女	1	0	0	1	0	0	3	1	0	2	1	1	10
計	1	2	1	2	1	0	6	1	1	2	1	1	19

19名の方が退所となり、その内死亡による退所は16人となっている。

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活動作の状況

[利用者80名]

項目	動作内容	男	女	計	項目	動作内容	男	女	計
移動	時間がかかっても介助なしに一人で歩く	1	10	11	入浴	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	2	3	5
	手を貸してもらするなど一部介助を要する	7	20	27		体を洗ってもらするなど一部介助を要する	7	34	41
	全面的に介護を要する	13	29	42		全面的に介護を要する	12	22	34
食事	やや時間がかかっても介助なしに食事する	12	25	37		着替	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	2	5
	おかずを刻んでもらうなど一部介助を要する	3	25	28	袖を通してもらうなど一部介助を要する		8	32	40
	全面的に介護を要する	6	9	15	全面的に介護を要する		11	22	33
排泄	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	3	7	10	整容	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	3	6	9
	便器に座らせてもらうなど一部介助を要する	8	33	41		タオルで顔をふいてもらうなど一部介助を要する	10	32	42
	全面的に介護を要する	10	19	29		全面的に介護を要する	8	21	29

食事以外の日常生活動作は、全介助の方が多く利用者の方の重度化が顕著に表れている。

## 日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者80名]

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	0
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	26
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	6
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	16
	2 介助により車椅子に移乗する。	19
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	7
	2 自力では寝返りもうたない。	6

寝たきりに当てはまるランク B・Cの利用者の方で全体の60.0%を占め、重度化が認められるが、昨年度の62.0%から若干の改善がなされている。

## 認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者80名]

項 目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	0
ランク I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	8
ランク II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	11
	b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	10
ランク III	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記IIIの状態が見られる。	20
	b 夜間を中心として、上記IIIの状態が見られる。	12
ランク IV	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	17
ランク M	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	2

80名の内、ランク III以上に位置づけされる利用者の方は63.8%となっている。

## (4)ケアプラン実施状況

〔ケアプラン：立案状況〕

項目	水分	離床	食事	整容	排泄	生きがいづくり	声かけ コミュニケーション	吸痰	転倒予防
人数	19	20	80	5	12	26	17	3	4
項目	日常生活の援助	入浴	皮膚観察	医療面	姿勢保持	口腔	褥瘡 ハリスク	運動	異常時の家族連携
人数	14	0	5	17	14	80	15	18	5

①個々のケアプランはそれぞれ複数となっているが、その内、最も重要と思われるもの各1を挙げている。

②個々のケアプランについては、包括的自立支援プログラム方式により6ヶ月毎及び状態に応じケアカンファレンスにて見直し立案を行い、サービス計画に基づいて毎日実践し、その状況を記録している。

〔ケアカンファレンス：立案人数／家族参加状況〕

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
立案人数	22	13	22	14	19	25	26	19	16	14	19	20	229
家族数	8	2	14	0	3	13	10	9	5	6	5	7	82

ケアカンファレンス開催時82名のご家族が参加され、家族参加の割合は35.8%となっており本人やご家族の要望等を取り入れながらケアプランに反映させるよう努めている。

## (5)利用者医療状況

### 疾病状況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	便秘症	58	22	拡張型心筋症	2
2	高血圧症	26	23	器質性精神病	2
3	老人性認知症	26	24	総胆管結石	2
4	脳梗塞後遺症	19	25	慢性動脈閉塞症	2
5	脳血管性認知症	21	26	アルコール認知症	2
6	糖尿病	11	27	前立腺肥大	2
7	アルツハイマー病	8	28	膀胱結石	2
8	C型肝炎	9	29	イレウス	3
9	狭心症	9	30	低体温症	2
10	変形性膝関節症	7	31	てんかん	2
11	骨粗しょう症	6	32	胃潰瘍	1
12	鉄性貧血症	6	33	B型肝炎	1
13	知的障害	5	34	横紋筋融解症	2
14	心房細動	5	35	一過性精神障害	3
15	心不全	3	36	うつ病	4
16	排尿障害	4	37	緑内障	3
17	気管支喘息	4	38	乳ガン	5
18	慢性腎不全	4	39	肝膿瘍	7
19	パーキンソン病	4	40	甲状腺機能低下症	8
20	統合失調症	5	41	硬膜下血腫	9
21	変形性腰痛症	3	42	小児麻痺	10
			合 計		317

現在治療中の疾病について、1人で複数の疾病を持っている方が多く、特に高齢者の特徴とも言える習慣性の便秘症が最も多くなっている。

## 受診状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	11	11	15	17	13	12	10	16	13	8	12	7	145	12.1	0.4
延人数	13	12	16	20	13	15	11	17	14	9	12	8	160	13.3	0.4

家族の要望での医療機関受診は、積極的に行っている。但し急変による心疾患と頭部疾患、骨折等は、当施設で対応困難である為、医療機関での治療をお願いしている。

## 入院状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	6	4	8	5	4	7	7	7	13	12	4	5	82	6.8	
延日数	56	94	83	30	61	63	138	109	111	159	21	50	975	81.3	2.7

状態の悪化により、本人や家族の希望で入院することがあるが、家族から終末を施設で迎えたいとの要望がある場合は、説明と同意を得てターミナルケアを実施している。

## 精神科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
実人数	16	14	13	15	15	11	14	12	11	12	12	13	158	13.2
延人数	24	20	24	24	20	11	19	15	11	14	12	14	208	17.3

精神科医の往診が月2回あり、認知症で周辺症状がある場合は、診察を受け、その診断を処遇に生かしている。

## 歯科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	1	0	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	12	1.0
実人数	5	0	9	10	5	7	5	4	6	3	4	4	62	5.2
延人数	5	0	10	11	5	7	5	4	6	3	4	4	64	5.3

木曜日、歯科医師の往診を受け、検診と口腔治療を主に行っている。

## 施設内処置状況

項目/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内服	実人数	73	71	69	76	75	71	73	70	71	73	71	70	863
	延べ人数	5657	5502	5175	5700	5812	5325	5600	5250	5764	5678	5218	5618	66,299
注射	実人数	6	11	10	4	5	8	7	12	13	13	10	8	107
	延べ人数	55	75	25	20	15	28	77	58	72	93	117	84	719
インシュリン	実人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	25
	延べ人数	150	155	150	155	155	90	155	150	150	155	150	225	1,840
浣腸	実人数	46	48	57	52	54	59	48	42	53	48	53	48	608
	延べ人数	105	100	116	143	153	156	115	113	173	134	115	151	1,574

高齢者の特徴である習慣性の便秘症が多く、浣腸の使用頻度が多くなっている。

現在、緩下剤内服調整で、浣腸使用の頻度を減らす方向で行っている。又、身体合併症

(心疾患、高血圧症、e t c) で内服継続の利用者が増えている。

以前に比べ、胃ろう造設者数は減少しているが包交処置はまだ多い。 経管栄養者(胃ろう:9名)

また、看取りケアが増加し、点滴の実施が多かった。

## (6) 身体拘束実施状況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1. 車椅子拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. チューブ拘束	0	13	30	31	31	30	31	30	33	36	49	31	345
3. つなぎ服拘束	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
4. ミトン型手袋による拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ日数	0	13	30	31	31	36	31	30	33	36	49	31	351

今年も身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置し、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努力している。委員会メンバーは・施設長・主任事務員・生活相談員・介護部長・介護副部長・看護職員・栄養管理部長・業務部長及び、グループ職員からの構成になっている。一昨年は5/11右脳出血にて病院搬送。治療後経口摂取困難で経鼻栄養のまま退院され抜管予防のためミトン手袋を使用開始になったが、口腔ケア、坐位訓練等に努め6ヶ月で経口摂取が可能になり身体拘束解除。しかし半月後肺炎を併発し再度経口摂取の訓練尚、運営基準で利用者の生命又は身体を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、行動を制限する行為を行ってはならないと規定されており、身体拘束などを行う場合には、その対応及び時間、利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。また、その際は、利用者本人や家族に対して詳細な説明と十分な理解を得る必要がある。

### 【拘束例】

1. 車椅子拘束とは、車椅子からずり落ちたり・立ち上がったりにしないようにY字型拘束帯や腰ベルトを使用する事。
2. チューブ拘束とは、点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひもなどで縛る行為。
3. つなぎ服拘束とは、脱衣やオムツはずしを制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる行為。
4. その他の拘束とは、自分で降りられないようにベッドを柵（サイドレール）で囲んだり、手指の機能を制限するミトン型の手袋をつけたり、自分の意志で開けることの出来ない居室等に隔離する行為である。

## (7) 機能訓練実施状況

個別機能訓練を行うにあたっては、ケアプランと連動しながら個別機能訓練計画に基づき機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員、その他の職種の者が協働して計画的に実施している。また、機能回復訓練のひとつに、作業療法士が担当するリハビリテーションがあるが、これは医療行為であるために医師の情報提供書、又はリハビリ訓練の指示箋が必要なので、骨折などで入院し、退院後も当施設で継続して訓練が必要な時、又は、新規入所時においても、在宅のリハビリを継続して希望されるときは、かかりつけ医の情報提供書、又はリハビリ指示箋に基づいて実施している。そして、個別機能訓練実施内容については、中間(3月毎)に直接、又は郵送にて本人、家族の方に説明している。

〔個別訓練実施内容〕

項目／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
運動療法	実人数	13	14	14	13	15	13	13	14	13	14	13	13	162
	延人数	54	59	73	59	77	70	49	53	49	64	64	70	741
歩行訓練	実人数	8	12	11	11	12	10	8	10	7	6	6	7	108
	延人数	23	40	62	49	64	48	32	35	29	28	28	38	476
物理療法	実人数	14	14	13	14	16	13	14	17	15	14	13	13	170
	延人数	40	59	70	68	86	71	54	58	52	62	64	66	750
ADL訓練	実人数	14	16	14	15	17	14	15	20	16	17	14	15	187
	延人数	54	61	80	70	89	78	54	68	49	73	66	73	815

①脳血管障害等の後遺症、変形性膝関節症、老人性腰痛、骨折の後遺症等の慢性疾患に対し、個別に機能の改善及び維持に努めている。

②訓練内容として

プラットフォーム、ベッドサイドでの徒手的な運動療法、歩行訓練、物理療法、作業療法を実施している。尚、グループケア導入により、個別重視で、個別訓練の時間、回数を増やし、ゆとりある対応、内容の充実で、口腔リハビリ、又ADL訓練の一環として、摂食訓練、車いすへの移動訓練等にも取り組んでいる。今年からの取り組みとして、数は少ないが社会参加として外出、外食などのプログラムを追加した。

## (8)グループケア実施状況

今年4月より質の高いケアを目指し、利用者のグループ編成（すみれグループ：31名 たんぽぽグループ：20名 ひまわりグループ：29名）や職員の勤務体制の見直しを図り、利用者と多くの関わりを持つことで家庭的な雰囲気、安心した生活が送れるよう個別ケアを行っている。

### 共通行事実施状況

実施日	行事内容	場 所	グループ別 参加利用者数			
			すみれ	たんぽぽ	ひまわり	計
4/3	お花見（車窓）	広瀬公園 他	3	9	12	24
5/14	春の遠足	マリンパーク	2	3	7	12
6/13	和太鼓演奏会見物	えひめ学園	1	3	6	10
7/2	七夕飾り	デイサービスセンター	4	8	13	25
7/24	夕涼み会	ふたば荘中庭	2	17	21	40
8/5	ふたば荘夏祭り	ふたば荘中庭	2	4	18	24
8/15	船木校区盆踊り	船木小学校	1	5	6	12
8/18	お盆の法要	デイサービスセンター	6	11	19	36
9/13	敬老会	デイサービスセンター	13	22	20	55
9/18	観月会	デイサービスセンター	8	1	16	25
9/23	彼岸のお勤め	観音室	2	18	16	36
10/16	太鼓台見物	ふたば荘南側道路	0	16	11	27
10/17	御神輿来荘	ふたば荘中庭	1	18	18	37

10/23	運動会	ふたば荘中庭	3	22	21	46
11/6	秋の遠足	あかがねミュージアム	1	5	4	10
12/4	アザレアコーラス	デイサービスセンター	0	18	21	39
12/7	船木小学校児童来荘	ひまわり・たんぼぼりビング	3	13	16	32
1/4	新年拝賀式	デイサービスセンター	1	14	14	29
1/4	初詣	船木神社	0	0	4	4
1/15	とうど祭り	ふたば荘中庭	3	6	12	21
2/7	賀寿のお祝い	デイサービスセンター	7	14	20	41
3/21	彼岸のお勤め	観音室	0	16	6	22
合 計			63	243	301	607

## クラブ活動 実施状況

(習字クラブ)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	3	1	2	2	2	0	1	2	0	2	3	0	18
たんぼぼ	9	4	3	13	7	11	7	6	0	8	2	5	75
ひまわり	17	17	18	18	17	18	18	8	9	11	16	13	180
合計	29	22	23	33	26	29	26	16	9	21	21	18	273

(お茶会)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	3	2	3	2	6	5	2	5	3	3	2	0	36
たんぼぼ	15	14	13	16	13	19	14	13	13	12	13	9	164
ひまわり	13	14	19	18	17	17	20	17	15	15	15	13	193
合計	31	30	35	36	36	41	36	35	31	30	30	22	393

(ホーム茶屋)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
たんぼぼ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひまわり	14	17	19	18	17	19	19	18	22	20	17	19	219
合計	14	17	19	18	17	19	19	18	22	20	17	19	219

(どれみ広場)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
すみれ	0	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0	1	9
たんぼぼ	16	17	16	15	18	15	15	0	16	17	16	17	178
ひまわり	13	17	19	17	16	18	19	15	18	19	19	15	205
合計	29	34	42	32	34	34	34	15	34	36	35	33	392

(お楽しみ会)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
すみれ	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	1	9
たんぽぽ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ひまわり	4	5	5	13	12	6	11	9	9	5	20	13	112
合計	4	5	5	13	12	6	11	10	12	7	22	14	121

## 《すみれグループ》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	181	190	165	191	181	164	129	151	148	148	86	136	1,870
座位入浴	22	18	20	17	25	32	40	44	37	36	29	34	354
自立補助入浴	16	21	8	8	15	18	9	26	27	26	20	35	229
自立入浴	8	13	8	9	9	9	12	21	31	8	0	0	128
シャワー浴	0	0	1	0	0	1	1	3	0	8	0	0	14
合計	227	242	202	225	230	224	191	245	243	226	135	205	2,595

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
お誕生会		0	1	0	1	0	0	1	5	0	0	0	2	10
外出(ドライブ/外食含む)	3	5	6	4	4	6	4	7	4	4	2	7	4	56
グループ行事	3	3	3	1	3	9	0	6	9	18	8	12	75	
合計	6	9	9	6	7	15	5	18	13	20	15	18	141	

月行事： 4月桜見物・他 5月フルーチェづくり 6月おかしづくり 7月花火大会  
8月水ようかんづくり 9月ホットケーキづくり 10月中庭散歩  
11月紅葉見物 12月クリスマスケーキづくり 1月白玉ぜんざいづくり  
2月バレンタインケーキづくり

## 《たんぽぽグループ》

(入浴実施状況： 2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	48	41	56	63	69	80	66	59	56	76	52	75	741
座位入浴	32	37	43	32	39	48	73	50	51	74	27	55	561
自立補助入浴	63	51	77	73	72	70	63	51	43	18	52	59	692
自立入浴	24	27	19	9	8	3	0	16	13	23	16	21	179
シャワー浴	0	1	0	0	1	0	0	5	0	0	1	0	8
合計	167	157	195	177	189	201	202	181	163	191	148	210	2,181

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
たんぽぽクッキング	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ドライブ(外食を含む)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
お誕生会	0	1	0	1	3	2	1	0	0	0	2	3	13
合計	2	2	0	1	3	2	1	0	0	0	2	3	16

## 《ひまわりグループ》

(入浴実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	75	84	60	79	70	67	68	61	60	67	70	62	823
座位入浴	65	54	48	50	53	57	68	60	58	46	57	62	678
自立補助入浴	45	40	36	57	57	63	61	67	72	78	70	63	709
自立入浴	26	36	30	36	36	31	27	16	16	38	16	16	324
シャワー浴	0	8	8	0	4	0	0	0	0	7	0	1	28
合計	211	222	182	222	220	218	224	204	206	236	213	204	2,562

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ドライブ(お買い物・外食・映画を含む)	2	2	1	2	3	4	4	2	5	2	6	5	38
お誕生会	3	0	0	0	0	5	2	1	4	2	4	5	26
合計	5	2	1	2	3	9	6	3	9	4	10	10	64

## 面会・外出(家族要望による)・外泊状況

月／項	面 会		外出 人数	外 泊	
	利用者	人数		人数	泊数
4月	181	246	4	1	1
5月	204	319	6	0	0
6月	186	269	5	2	2
7月	183	241	4	0	0
8月	156	239	6	1	1
9月	144	208	3	0	0
10月	184	255	5	2	2
11月	168	209	6	0	0
12月	189	277	3	2	2
1月	174	227	4	0	0
2月	146	183	3	0	0
3月	181	256	5	0	0
合計	2,096	2,929	50	8	8
月平均	174.7	244.1	4.2	0.7	0.7

①毎月約244名のご家族の面会があり利用者の方にとっては、ご家族の方々の面会を楽しみにされている。

②外出について、通院及び季節行事は除いている。

## 給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

## 栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	リスク 未定	合 計
4月	80	21	41	18	0	80
5月	79	42	32	5	1	80
6月	78	40	35	3	2	80
7月	77	44	29	4	3	80
8月	79	42	34	3	1	80
9月	78	38	34	6	2	80
10月	79	23	43	13	1	80
11月	78	43	30	5	2	80
12月	79	47	27	5	1	80
1月	77	46	30	1	3	80
2月	76	46	29	1	4	80
3月	78	46	30	2	2	80
合 計	938	478	394	66	22	
月平均	78.2	39.8	32.8	5.5	1.8	

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施しており、著しい改善には至っていないものの、現状維持できている方が多くみられた。

## 食事の状況

	主 食					副 食				
	普通	握食	粥食	流動	経管	普通	刻食	ミキサー	流動	経管
居 室	7	1	13	3	9	8	3	11	2	9
食 堂	22	6	19	0	0	25	18	4	0	0
合 計	29	7	32	3	9	33	21	15	2	9

食形態において主食に於ける普通食は全体の45%、副食に於ける普通食41.3%、刻食26.3%、ミキサー食18.7%、流動食2.5%、経管11.2%

## 行事食の献立状況

月 日	行 事 名	献 立
4/26	野外食	筍ご飯、あゆの塩焼き、筍とわらびの煮物、筍のてんぷら、木の芽和え、若竹汁、メロン
5/20	母の日バイキング	にぎり寿司、巻き寿司、いなり寿司、カキフライ、かに酢、かぼちゃの煮物、赤だし、メロン
6/24	父の日バイキング	巻き寿司、鶏肉の香り揚げ、酢の物、冷やし茶碗蒸し、フルーツポンチ、じゃこてん、焼き鳥
7/15	夏バテ予防バイキング	押し寿司、鮎の塩焼き、なすの味噌田楽、たらいそうめん、酢の物、フルーツポンチ、お好み焼き
8/26	夏バテ解消バイキング	鯛飯、えびフライ、かに酢、とうがんの煮物、じゃこてん、焼き鳥、枝豆、トウモロコシ、フルーツ盛り
9/11	敬老会祝い膳	巻き寿司、鯛の塩焼き、筑前煮、かきフライ、かに酢、フルーツ盛り、とろろ汁
9/16	観月会	いも炊き、巻き寿司、じゃこてん、みぞれ和え、ぶどう
10/21	野外食	カレーライス、えびフライ、大根サラダ、みかん
11/25	紅葉バイキング	ちゃんちゃん焼き、栗ごはん、焼き鳥、酢の物、グリーンピースの卵とじ、メロン
12/20	忘年会	鯛飯、かに爪フライ、かに酢、焼き鳥、茶碗蒸し、フルーツゼリー
1/1	おせち料理	赤飯、ブリの照り焼き、紅白かまぼこ、伊達巻き、巻昆布、黒豆、きんとん、田作り、菊花かぶ、メロン、上生菓子、雑煮
1/20	新春バイキング	巻き寿司、寄せ鍋、じゃこてん、なます、酢の物、筍とふきの煮物、フルーツゼリー
2/5	賀寿の祝い	五目寿司、鯛の塩焼き、筑前煮、えびフライ、酢の物、フルーツ盛り合わせ、清し汁
3/3	ひな祭りバイキング	巻き寿司、手鞠寿司、押し寿司、一口寿司、いなり寿司、かきフライ、吹き寄せ、かに酢、潮汁、フルーツみつ豆

① 1日：朔日メニュー ・ 祝日メニュー

② 選 択 食・・・・・・月～金（昼食に実施）

## 短期入所生活介護の利用状況

	人数	延日数	1日平均
4月	21	147	4.9
5月	14	112	3.6
6月	17	159	5.3
7月	18	187	6.0
8月	18	175	5.6
9月	18	143	4.8
10月	16	141	4.5
11月	15	136	4.5
12月	14	125	4.0
1月	18	155	5.0
2月	17	154	5.5
3月	14	137	4.4
合計	200	1,771	
月平均	16.7	147.6	4.84
前年度実績	210	1,584	
前年度比	95%	112%	

短期入所は定員4名であるが、1日平均4名を超えている月は入院者の空きベッドを利用して対応した。

## 社会福祉法人減免

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36

社会福祉法人減免として生活困難な利用者に対し、利用料の減免措置を行っている。

減免対象者の範囲

1. 老齢福祉年金受給者
2. 市町村が生活困難と認めた場
3. 対象年収が42万円以下の方

## 家族会の状況

実施日	参加家族数	参加人数
平成28年6月19日	27	37
平成28年12月18日	22	31

### 《平成28年度第1回目》

- ①家族会会長の選任について
- ②平成27年度事業報告について
- ③平成28年度事業計画について
- ④グループケアへの取り組み状況報告
- ⑤平成27年度第2回家族会アンケート集計結果について
- ⑥職員と家族との個別面接の実施、利用者の方の個々のケアプランの立案経過を報告する

### 《平成28年度第2回目》

- ①平成28年度中間事業報告について
- ②グループケアへの取り組み状況報告
- ③職員と家族との個別面接の実施、利用者の方の個々のケアプランの立案経過を報告する

## 実習活動実施状況

実習期間	内 容	人員
H28. 6. 22～6. 23	船木中学校	2
H28. 9. 2～10. 4	四国中央医療福祉総合学院	2
H28. 11. 14～H28. 11. 18	京都教育大学	1
H28. 12. 13	新居浜市役所	6
H29. 1. 24～H29. 1. 27	ガラリヤ荘	1
合 計		12

## 施設見学

日時	内 容
H28. 12. 30	一般 5名
H29. 2. 8	一般 2名
H29. 3. 11	一般 2名
合 計	13名

# ボランティア活動実施状況

月日	ボランティア名	人員	内 容	月日	ボランティア名	人員	内 容
4/5	ふたばクラブ21	7	お花見	10/22	ボーイスカウト新居浜	7	車椅子点検
4/8	ふたばクラブ21	1	習字	10/25	ふたばクラブ21	1	お茶会
	ボランティア愛	2		ボランティア愛	2		
	ふたば荘OB	1		10/26	ふたばクラブ21	7	お楽しみ会
	ふたばクラブ21	1		10/28	ふたばクラブ21	1	習字
ボランティア愛	2	ボランティア愛	2				
ふたばクラブ21	1	ふたば荘OB	1				
4/19	ボランティア愛	2	5月人形	11/4	ふたばクラブ21	7	遠足
4/22	ボランティア愛	2	習字	11/15	ふたばクラブ21	1	お茶会
	ふたば荘OB	1		ボランティア愛	2		
	ボランティア愛	3		11/18	ふたばクラブ21	1	習字
ボランティア愛	2	ボランティア愛	2				
ふたば荘OB	1	ふたば荘OB	1				
4/23	ボランティア愛	2	ホーム茶屋	11/22	ボランティア愛	2	ホーム茶屋
4/27	ボーイスカウト新居浜	5	車椅子点検	11/26	ボーイスカウト新居浜	4	車椅子点検
5/6	ふたばクラブ21	10	お楽しみ会	11/29	ふたばクラブ21	1	習字
5/10	ふたば荘OB	1	習字	ボランティア愛	3		
	ボランティア愛	3		11/30	ふたばクラブ21	10	お楽しみ会
5/20	ふたばクラブ21	1	5月人形かたづけ	12/9	ふたばクラブ21	1	習字
5/21	ボランティア愛	2	習字		ボランティア愛	1	
	ふたば荘OB	1			ふたば荘OB	1	
5/24	ボランティア愛	2	習字	12/20	ふたばクラブ21	1	習字
5/25	ボランティア愛	2	車椅子点検	ボランティア愛	1		
	ボーイスカウト新居浜	6		ふたば荘OB	1		
5/31	ふたばクラブ21	1	お茶会	12/20	ボランティア愛	1	定例会(忘年会)
6/10	ボランティア愛	2	お楽しみ会	ふたばクラブ21	5		
	ふたばクラブ21	7		ボランティア愛	6		
6/14	ボランティア愛	3	ホーム茶屋	12/20	ふたばクラブ21	1	忘年会
6/21	ふたば荘OB	1	習字	ふたばクラブ21	5	お楽しみ会	
	ボランティア愛	3		12/22	ふたばクラブ21	2	クリスマス会
6/22	ふたばクラブ21	1	お茶会	12/24	ボーイスカウト新居浜	5	車椅子点検
6/24	ボランティア愛	2	お茶会	1/6	ふたばクラブ21	1	習字
6/25	ボランティア愛	2			ボランティア愛	2	
6/28	ふたばクラブ21	7			ホーム茶屋	ふたば荘OB	
6/28	ボランティア愛	2	習字	1/17	ふたばクラブ21	7	とうど送り
	ふたば荘OB	1		1/20	ふたばクラブ21	1	習字
7/1	ボーイスカウト新居浜	7	車椅子点検	ボランティア愛	1		
7/15	ふたばクラブ21	1	習字	ふたば荘OB	1		
	ボランティア愛	2		1/24	ふたばクラブ21	1	お茶会
	ふたば荘OB	1		ボランティア愛	1		
7/19	ボランティア愛	3	習字	1/25	ふたばクラブ21	9	お楽しみ会
	ふたばクラブ21	1		1/27	ボランティア愛	2	ホーム茶屋
7/23	ボランティア愛	3	お茶会	1/28	ボーイスカウト新居浜	6	車椅子点検
7/26	ふたばクラブ21	1	車椅子点検	1/31	ふたばクラブ21	1	雛段
7/27	ボランティア愛	2			ボランティア愛	2	
8/3	ボーイスカウト新居浜	5		ホーム茶屋	2/3	ふたばクラブ21	1
8/16	ボランティア愛	2	お楽しみ会	ボランティア愛	3		
	ふたばクラブ21	7		夏祭り	ふたば荘OB	1	
8/23	ふたばクラブ21	6	習字	2/5	ふたばクラブ21	8	賀寿の祝い
	ふたば荘OB	1		2/17	ふたばクラブ21	1	習字
8/24	ボランティア愛	2	お茶会	ボランティア愛	1		
8/26	ふたばクラブ21	1	お楽しみ会	ふたば荘OB	1		
8/27	ボランティア愛	2		2/21	ふたばクラブ21	1	お茶会
8/30	ふたばクラブ21	5		習字	ボランティア愛	2	
	ふたば荘OB	1	2/22		ふたばクラブ21	6	お楽しみ会
9/6	ボランティア愛	3	車椅子点検	2/28	ボランティア愛	1	ホーム茶屋
	ボーイスカウト新居浜	7		ホーム茶屋	3/1	ボランティア愛	1
9/9	ボランティア愛	3	お茶会	3/11	ボーイスカウト新居浜	5	車椅子点検
	ふたばクラブ21	1		3/17	ふたばクラブ21	1	習字
9/23	ボランティア愛	2	習字	ボランティア愛	1		
	ふたばクラブ21	1		ふたば荘OB	1		
	ふたば荘OB	1		3/21	ふたばクラブ21	1	お茶会
9/24	ボランティア愛	2	お楽しみ会	ボランティア愛	2		
9/27	ふたばクラブ21	6	習字	3/23	ボーイスカウト新居浜	7	車椅子点検
	ふたば荘OB	1		3/24	ふたばクラブ21	1	ホーム茶屋
10/4	ふたばクラブ21	1	ホーム茶屋	ボランティア愛	3		
10/7	ボランティア愛	2		習字	3/25	ふたばクラブ21	8
10/21	ボランティア愛	2	運動会		3/31	ボランティア愛	2
	ふたば荘OB	1		ふたば荘OB	1		

	合 計	343
--	-----	-----

ふたばクラブ21のボランティアについては、毎月（第四水曜日）のお楽しみ会や個別活動にて行事のお手伝い等3月末まで延べ343名のボランティアの方々が訪問し、行事・清掃等を実施して頂いた。  
また、ボランティア手帳についても各人活用し、活動時には持参して頂いています。

## 10. 指定居宅介護支援

総合目標及び課題

- ・より高いマネジメント力をつけ、利用者家族やサービス事業所との関係構築に努めた。
- ・平成29年度の総合事業実施や制度改正に向け、情報収集を行い、迅速で適切な対応に努めた。

目標及び課題	成果等
(1) 安定した稼働率の維持	① 介護支援専門員1人当たりの担当件数 介護給付 31.4件/月 予防給付 7.2件/月 ② 利用者や家族への豊富な情報提供とサービス選択のために、多角的な視点から提案を行った。 ③ サービス提供事業所と密に連携をとり、状況に合ったサービスを提供できるように努めた。
(2) 職員の研鑽	① 業務に関連する研修会に参加し、継続した支援が行えるよう、知識と能力の向上に努めた。 ② 制度改正を視野に入れ、情報収集に努めました。適切な対応と利用者への情報提供を行いました。
(3) 事業所内の連携と法人内事業所との協力	事業所内での情報共有と、他事業所等との情報交換により、円滑な対応と地域への協働体制を目指した。

## 11. 通所介護事業所 (含 介護予防通所介護事業所)

総合目標及び課題

事業休止中につき、再開も含め今後の事業について検討出来なかった。

目標及び課題	成果等
(1) 事業の検討	再開を含む事業内容について、検討することができなかった。次年度以降の課題となった。
(2) 配食サービス	在宅で生活する要援護高齢者に対して、栄養のバランスのとれた食事を定期的に供給できた。また、食を手渡しすることで、安否確認、状況確認もできた。 300円：1, 218食 500円： 551食

## 12. 在宅介護支援センター

新居浜市地域包括支援センターが行う総合相談支援業務及び権利擁護業務等に協力した。

在宅介護支援センターは次に定める事業を行った。

目標及び課題	成果等
(1) 総合相談支援業務 「高齢者や家族からの総合的な介護や福祉に関する相談」	主として成年後見制度に関する相談が多数であり、市長申立に向けた働きかけを、各関係機関と共に行った。
(2) 権利擁護業務	「認知症サポーター養成講座補助」 講師0回・演者3回
(3) 地域ケアネットワーク推進協議会の開催	「船木地域ケアネットワーク推進協議会」： 3回 「泉川地域ケアネットワーク推進協議会」： 1回
(4) 配食サービス利用者アセスメント業務	配食サービス利用者再アセスメント調査 : 22件 配食サービス利用者新規アセスメント調査 : 6件

## 13. 成年後見センター

平成24年度より、当法人の社会貢献事業として成年後見事業を実施してきたが、担当職員の退職により、後見担当者の誓約要件を充たすことができなくなり、平成28年12月31日をもって事業を廃止した。

## 14. 委員会活動

目標及び課題	成果等
<b>【環境委員会】</b> 利用者・職員が快適に生活出来る空間を提供できるよう、施設内外の環境整備に努めた。	① 月1回奉仕デイを実施し、施設内外の環境美化に努めた。ただ、毎回の参加人数が10数名と少なく、予定箇所ができない事があった。雨天時には、翌週等に延期し対応した。 ② 施設内の破損箇所の補修・壁やシンクのカビ除去清掃を、年2回臨時で実施した。今後も梅雨時期等に、協議して実施していきたい。

<p><b>【サービス向上委員会】</b>  施設生活や利用者個人に関わる課題について多職種で協議し、サービスの質向上を図った。</p> <p><b>【感染委員会】</b>  施設では、抵抗力が弱い利用者が生活しています、感染の拡大を最小限にする事に努めた。</p>	<p>③ 委員で花壇の割り振りをし管理を行ったが、委員退職等もあり、十分には出来なかった。そのため、植え替えの必要の無い、多年草に順次花壇の植え替えを行っていきたい。</p> <p>① 季節の全体行事について、実施方法や場所の選択等の検討を行い、実施に繋げる事ができた。</p> <p>② 各部署や委員会からの検討課題について、参加者で協議・評価を行う事で、サービスの向上に繋げる事はできた。しかし、検討課題の抽出については、もう少し事前に準備し、多様な項目について協議できるように改善していきたい。</p> <p>施設において、感染に対する抵抗力が弱い利用者が集団で生活する場所のため、平常時から対策を実施し、発生時においては迅速な対応が出来るように職員の意識レベルの向上を図り、感染症が発生した場合、その拡大を最小限に抑えるように施設全体で取り組むよう努めた。</p> <p>① 委員会開催回数及び出席人数  年間／11回 出席延べ人数／61名</p> <p>② 毎月の委員会検討内容（項目のみ）  4月・・・MRSA結果報告／ゴキブリの集計／利用者健康診断実施  5月・・・MRSA結果報告／ゴキブリの集計／春のベッドマット消毒交換の実施、職員の健康診断 利用者感染症一覧表配布について  6月・・・MRSA結果報告／ゴキブリの集計／  7月・・・MRSA結果報告／ゴキブリの集計  8月・・・MRSA結果報告／ゴキブリの集計／利用者の水虫について  9月・・・MRSA結果報告／ゴキブリの集計  10月・・・MRSA結果報告／ベットマット交換についてインフルエンザ予防接種について  12月・・・MRSA結果報告／インフルエンザ発症者（職員）報告提出実施について  1月・・・MRSA結果報告／内部学習会予定「水虫（フットケア）について」（参加者23名）  塩素の保管と交換について</p>
---	---

<p>【給食委員会】 食事を通して、利用者の健康保持と生活の楽しみを提供できる活動に努めた。</p> <p>【広報委員会】 広報誌を通じて利用者・家族・地域等に対して、施設生活の様子を伝える事ができるよう活動を実施し、施設への関心を高める事に努めた。</p> <p>【研修委員会】 施設内研修の計画立案を行った。</p>	<p>2月・・・MRSA結果報告／インフルエンザについて 1月内部学習会での各グループでの対応策について</p> <p>3月・・・MRSA結果報告／インフルエンザについて 整理整頓について</p> <p>③ 平成28年度の活動と結果について 今年のインフルエンザは、前年度と同様流行期間が遅く、流行期が過ぎても発症している地域がある。感染状況に注意したり、利用者・職員のインフルエンザワクチン接種にて予防し手洗い、うがいの徹底を行った。その結果、今年度も施設内でのインフルエンザの発症はなかった。今後も、委員会を中心に感染予防を行う。</p> <p>④ 次年度以降の取り組みについて 利用者が、安心して過ごして頂けるように、常に利用者の状態を観察し、変化に気づき早期発見と早期対応に努る。また、万が一感染が発生した場合は、施設全体で感染拡大を最小限に抑えるように委員会を開催し、感染源を遮断するよう全職員で取り組む。 次年度は施設内の清潔を保ち整理整頓を心がけ、感染に対する職員の意識レベルの向上に努める。</p> <p>① 毎月、行事食の計画立案をおこなった。 ② 毎月、体重の変化や、食思の変化、体調の変化など食事に関する個々の食事検討を行い、早急の対応をおこなった。 ③ 水分補給や食事形態、食事介助などの検討をおこなった。 ④ 経口摂取維持の為に口腔ケア及び食事介助について評価をおこない、誤嚥の予防に努めた。</p> <p>① 年6部（奇数月）広報誌の発行を実施した。 ② 広報誌を伊予銀行船木支店および郵便局船木支店の店頭で配布、船木公民館を通じて船木地区全域に配布した。ふたば夏祭りのポスターを各所に設置した。</p> <p>研修内容に関しては、運営基準に基づき定期的な研修内容を取り入れ年間計画を作成。9の研修を実施し延べ人数で208名の参加があった。ただし、</p>
--	--

<p><b>【事故防止委員会】</b> 介護事故の予防・減災に努めた。</p> <p><b>【言葉・態度委員会】</b> 利用者・外来者・職員が心地よく感じられる、接遇を目指し言葉遣い・態度について見直しをおこなった。</p> <p><b>【褥瘡委員会】</b> 施設内で褥瘡を発生しないように努めた。</p>	<p>介護職員の退職などで12月に実施予定の第12回施設内実践報告会は実施できず、来年度への順延とした。指導監査で多くの職員が参加出来る工夫の指摘をうけたが、年間を通して事務の参加率85%、医務71%、厨房79%、介護47%という状況であった。介護職の参加率が悪いため次年度の課題とした。</p> <p>① 介護事故再発防止のため、報告された事例に関しては集計し事故防止委員会の中で分析にて具体的検討。その中で、本年度は4月から監査で指摘事項の事故とひやりの区分の見直しを実施。その結果、事故発生が61件、ひやり報告件数が84件、短期入所の事故、ひやり合計が31件であった。</p> <p>② 重大事故については、5件の事故を新居浜市介護福祉課・東予地方局に提出した。</p> <p>③ 本年度3月に外部講師にてリスクマネジメントの研修を計画し実施したが、参加人数21名で介護職員の参加が少なく次回の課題となった。</p> <p>「笑顔で挨拶」をすすめてきた。利用者、ご家族、来荘者、職員同士で笑顔で挨拶できるように啓発活動をした。笑顔が苦手な職員もおり、挨拶が出来ない場面も見受けられた。何事も挨拶から始まるので、今後も「笑顔で挨拶」が全職員が出来る様に啓発活動を勧めていく。</p> <p>また、職員同士でも「～さん」と呼ばず、「～ちゃん」と呼んでいることがある。きちんと姓で呼ぶことを習慣化していく。</p> <p>平成28年度、施設において褥瘡が発生しないように委員会で、発生予防や対策を検討した。</p> <p>① 年間12回      参加人数    77名</p> <p>② 褥瘡者発生      ハイリスク者人数</p> <table border="0"> <tr> <td>4月・・・1名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>5月・・・1名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>6月・・・2名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>7月・・・2名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>8月・・・1名</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>9月・・・1名</td> <td>19名</td> </tr> </table>	4月・・・1名	17名	5月・・・1名	17名	6月・・・2名	17名	7月・・・2名	16名	8月・・・1名	17名	9月・・・1名	19名
4月・・・1名	17名												
5月・・・1名	17名												
6月・・・2名	17名												
7月・・・2名	16名												
8月・・・1名	17名												
9月・・・1名	19名												

<p><b>【排泄委員会】</b>  (1) 気持ちのよい排泄を目指した。</p> <p>(2) 皮膚のトラブル、尿路感染等の予防に努めた。</p> <p><b>【看取り委員会】</b>  安らかな最期を迎えられる様支援に努めた。</p>	<table border="0"> <tr><td>10月・・・1名</td><td>17名</td></tr> <tr><td>11月・・・1名</td><td>17名</td></tr> <tr><td>12月・・・0名</td><td>17名</td></tr> <tr><td>1月・・・0名</td><td>17名</td></tr> <tr><td>2月・・・0名</td><td>18名</td></tr> <tr><td>3月・・・0名</td><td>17名</td></tr> </table> <p>③ 4・10月健康診断によるアルブミン値のK式スケール評価実施した。</p> <p>④ 年1回の褥瘡委員会により学習会を実施した。  平成28年10月 「ポジショニングの実際」実施  外部講師:株式会社タイカ 井上誠氏</p> <p>⑤ 褥瘡状況と結果について  本年度は、褥瘡治癒までに時間が掛かった。受診を続けながら、介護・看護で連携を図りケアの実施し、完治することが出来た。高齢のため基礎疾患があり身体レベル低下があるが、今後も褥瘡ゼロを目指し取り組みを実施する。</p> <p>個々の排泄のサインを読み取り、パット内が清潔を保てるよう、定時のトイレ誘導や随時誘導を組み込み清潔維持に努めたが、本人にとって気持ちの良い排泄であったかどうかの疑問は残り今後の課題となった。</p> <p>トイレ誘導・オムツ交換時等の皮膚状態の観察を、職員全員で意識し、医務と連携を取り早期発見に努めた。</p> <p>当委員会では、利用者が尊厳ある安らかな最期を迎えるために看取り開始時から他職種と連携した会を持ち、本人の意思ならびに家族の意向を最大限に尊重して行った。</p> <p>① 看取りの実際</p> <table border="0"> <tr><td>4月 1名</td><td>6月 1名</td><td></td></tr> <tr><td>10月 3名</td><td>11月 1名</td><td></td></tr> <tr><td>2月 1名</td><td>3月 1名</td><td>計8名</td></tr> </table> <p>② 今後の課題と取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃より家族とのコミュニケーションをとる事で、信頼関係が築けた。</li> <li>・施設での看取りの理念、死生観教育、終末期の身体的・精神的変化への対応など、研修を通し看取りが適切に行われるよう職員教育を実施した。</li> </ul>	10月・・・1名	17名	11月・・・1名	17名	12月・・・0名	17名	1月・・・0名	17名	2月・・・0名	18名	3月・・・0名	17名	4月 1名	6月 1名		10月 3名	11月 1名		2月 1名	3月 1名	計8名
10月・・・1名	17名																					
11月・・・1名	17名																					
12月・・・0名	17名																					
1月・・・0名	17名																					
2月・・・0名	18名																					
3月・・・0名	17名																					
4月 1名	6月 1名																					
10月 3名	11月 1名																					
2月 1名	3月 1名	計8名																				

**【喀痰吸引委員会】**

喀痰吸引を安全に実施できる  
よう努めた。

・看取りが計画通りに実施できたかどうかの評価を  
終結のカンファレンスを早い時期に行うことで、各  
職種より反省点を上げる事で、次以降の課題・参考  
となった。

・看取りに対しての家族と職員との感じ方・受け入  
れ方を共有するために細やかなコミュニケーション  
の取り方が必要。

利用者が、穏やかに生活して頂くために医療行為  
研修を終了した介護職員による安楽な呼吸の管理に  
努めた。

**【喀痰吸引の実際】**

4月:同意者数	9名	夜間吸引者数	3名
5月:同意者数	10名	夜間吸引者数	3名
6月:同意者数	10名	夜間吸引者数	5名
7月:同意者数	7名	夜間吸引者数	2名
8月:同意者数	6名	夜間吸引者数	3名
9月:同意者数	7名	夜間吸引者数	5名
10月:同意者数	6名	夜間吸引者数	3名
11月:同意者数	6名	夜間吸引者数	3名
12月:同意者数	6名	夜間吸引者数	3名
1月:同意者数	6名	夜間吸引者数	3名
2月:同意者数	6名	夜間吸引者数	2名
3月:同意者数	9名	夜間吸引者数	2名

特別養護老人ホーム  
短期入所生活介護事業所  
デイサービスセンター  
グループホーム

ふたばの森

# 特別養護老人ホームふたばの森

## 1.事務

### 総合目標及び課題

開かれた施設経営を行うとともに利用者と地域貢献にお応え出来るように努めた。  
また、それぞれの各事業所、職種間で連携が取れるように図った。

重点目標及び課題	成果等
(1) 予算執行及び事務処理の効率化	① 予算要求に基づき、緊急性のあるものより順次半期より執行をした。 ② 移行をさせた新会計に基づき、適切な会計処理を行い経営会議において毎月会計報告を行った。
(2) 介護報酬減収への対応	平成27年度より3年間、減収となるためより一層の高稼働率（欠員補充等）に努め退所から入所にかけての空床を縮めた。また、人件費についても11月の法人内異動で事務所員減1名で対応した。また、消耗品等の在庫管理に努め低価格の商品を適正な数料を発注することで、経費節減に努めることが出来た。
(3) 新居浜市介護支援ボランティアの受入れについて	平成26年11月よりスタートした介護支援ボランティアの受入れを継続して積極的に行った。
(4) 地域貢献への強化	平成28年1月より試験的に移動販売を開催して毎週、月曜日には定期的に開催が出来るように全職員で協議を行いアウトリーチで地域住民の表明されていないニーズを掘り起こし、施設が有する機能を地域へ還元して貢献に繋げた。 移動販売については、地区社協の依頼もあり、本年度初の地域イベントにも出店し好評を得た。
(5) 防犯への取り組み	障がい者施設で発生した無残な殺傷事件を機に当施設においても防犯に関する取り組みを強化した。内容については・防犯設備点検チェック表を作成して日々の点検に努めた。また、新居浜警察署生活安全課より刺叉の使い方や侵入者への対応策をご指導い

(6) 情報収集と共有について	<p>ただいた。また、当日は地域自治会の方々も参加いただき協力体制についても協議した。</p> <p>日々、変わっていく情報をインターネットやマスメディアを活用して収集を図り、即座に全職員に確実に発信して共有を図った。</p>
-----------------	---

## 2.生活相談員

### 総合目標及び課題

施設理念に沿って利用者の満足と安心した生活に繋がるよう他職種と連携して、個々に応じたサービスの提供に努めた。また、契約者と連絡を密に行い施設サービスの理解と関係作りに努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率について	<p>年間平均稼働率は94.4%となった。入所待機者を常時調整・確保し、空床が発生すると同時に新規入所者の利用調整を行うが、入退所11件において空床87日、平均7.9日間での新規利用者の入所契約となった。また、入院時の空床ベッドをショート利用に繋がる調整については、空床545日に対してショート利用147日、空床利用率26.9%にとどまった。</p>
(2) 利用相談等の調整・対応について	<p>契約者に対して利用者の服薬変更、事故発生時は速やかに連絡するように努めた。また、市外契約者には利用者の写真を沿えて健康状態等を簡易に記録した書面を隔月で郵送して、利用者情報を家族と共有できるように積極的に情報を発信した。また、施設利用料金簡易計算表を作成して、個別ごとに利用料金の説明を行なえるように体制を整えた。</p>
(3) 生活リハビリの継続と充実	<p>① 介護力向上研修の一環により、日常生活リハを相談員等でほぼ毎日短時間ではあるが提供した。主に歩行器を使った訓練が主となったが、個別にベッド上での関節の曲げ伸ばしを行ない、リハビリのニーズにできる限り柔軟に対応し実施した。</p>

(4) 実習・ボランティアについて	① 実習の目的に沿って各実習の受け入れに努めた。新規実習団体の受け入れはなく昨年同様の対応となった。ボランティアについては個人で2名のみ継続活動されているが、新規団体の活動受け入れはなく施設における新規ボランティアの受け入れ等はなかった。
-------------------	---

### 3.介護

#### 総合目標及び課題

一人ひとりの要望に応えるとともにケアプランに個々の要望や、ご家族様の要望を反映させながら安全で安心した生活が過ごせるような手伝いをした。また、前年度に引き続き介護力向上講習会で学んだ水、運動、自然排便を目標に努めた。

<さくらユニット>

重点目標及び課題	成果等															
(1) 個別ケアの充実	個々にあったサービスを提供し、利用者や家族の要望もありマッサージを業者に依頼し実施する事が出来た。利用者の体調不良により何名かトイレで排泄が出来なくなったが、多職種協力の下、再度トイレで排泄出来るよう取り組んで行きたい。															
(2) 統一したサービス支援の提供	新しい取り組みを行う時は、まず各ユニット内で相談し方向性を確認し、他のユニット、他職種にも情報の共有を図って、同じ対応ができる様取り組んだ。															
(3) 接遇の共通認識	<p>① 利用者と同じ目線で接し、不快感を与えないようにした。</p> <p>② 挨拶は元気で明るい笑顔で接した。ユニットで接遇目標を掲げ、ユニット会にて実施出来たかどうか話し合うようにした。</p>															
(4) 年間諸行事	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>行事</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>お花見</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>菖蒲、紫陽花見物</td> <td>1 4</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>七夕祭り</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>納涼祭（盆踊り）</td> <td>1 3・1 5</td> </tr> </tbody> </table>	月	行事	実施日	4	お花見	6	6	菖蒲、紫陽花見物	1 4	7	七夕祭り	7	8	納涼祭（盆踊り）	1 3・1 5
月	行事	実施日														
4	お花見	6														
6	菖蒲、紫陽花見物	1 4														
7	七夕祭り	7														
8	納涼祭（盆踊り）	1 3・1 5														

9	いも炊き	23
10	運動会	9
10	地方祭	16
11	紅葉見物	28
12	クリスマス会、外食	16・8
1	新年式、初詣	1・4
3	梅見物・外食（ユニット行事）	7

<ふじユニット>

重点目標及び課題	成果等																		
(1) 個別ケアの充実	<p>個人の要望を聞きながら、ユニットの職員が中心になり、個別ニーズに対応した。外食や外出など個々の要望に応えられるよう調整をした。好みの飲み物を提供し、歩行練習や個別に食物繊維（バナナ）を摂ってもらい自然排便を促せるよう利用者の状態を細かく観察した。</p> <p>入所者やご家族の要望でマッサージ業者に依頼して週1回マッサージを実施している。</p>																		
(2) 統一したサービス支援の提供	<p>新しい取り組みを行う時は、まず各ユニット内で相談して方向性を確認し、他のユニット職員や他職種職員（相談員、看護職員、栄養士）とも情報の共有を図り、同じ対応ができる様にした。</p>																		
(3) 接遇の共通認識	<p>① 元気に笑顔で挨拶を行った。</p> <p>② 感謝の気持ちを忘れないようにした。</p> <p>③ 接遇委員会と相談しながら毎月のユニット会で接遇目標を決めて評価もユニット会で話し合う事にした。</p> <p>ふじユニット理念とし取り組んだ。</p> <p>また、会話時の姿勢や目線に気をつけた。</p>																		
(4) 年間諸行事	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>行事</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>お花見</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ユニット行事（買い物）</td> <td>10・12</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ユニット行事（買い物）</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ユニット行事（コンサート）</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>納涼祭（盆踊り）</td> <td>13・15</td> </tr> </tbody> </table>	月	行事	実施日	4	お花見	6	6	ユニット行事（買い物）	10・12	7	ユニット行事（買い物）	12	7	ユニット行事（コンサート）	24	8	納涼祭（盆踊り）	13・15
月	行事	実施日																	
4	お花見	6																	
6	ユニット行事（買い物）	10・12																	
7	ユニット行事（買い物）	12																	
7	ユニット行事（コンサート）	24																	
8	納涼祭（盆踊り）	13・15																	

9	いも炊き	2 3
1 0	運動会	1 2
1 0	地方祭	1 6
1 2	船木小学校児童訪問	1
1 2	クリスマス会	1 4
1	拝賀式、初詣	1・4

<いちようユニット>

重点目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの充実	<p>① 個々にケアプランを作成し、その方に合った個別ケアを行い、介護力向上講習会で学んだ水分・排泄・歩行に積極的に取り組んだ。ご自分で訴えの出来る利用者が多いので、担当職員を中心にその方の要望が実現出来る様に、相談員、家族と密に連携を取り対応した。</p> <p>② 個別での外出を行い、ご自宅で家族とゆっくりと過ごす時間を持つ事が出来たり、外食を楽しんでいただく事が出来た。</p>
(2) 統一したサービス支援の提供	<p>① 報告・連絡・相談を密にし、職員5名が、統一した処遇ができるように、月に1回のユニット会の他に、ユニット職員間での情報共有を行える連絡簿を活用した。</p> <p>② 他職種や他ユニット職員との情報共有を行い、統一処遇が出来る様に努めた。</p> <p>③ 9月より、ユニット内での炊飯を始めた。現在は、朝食のみの炊飯だが、ご飯を炊く匂いを喜んでもらえ家庭的な雰囲気を感じてもらえる事が出来た。</p>
(3) 接遇の共通認識	<p>① 利用者の立場、気持ちになり「ありがとうございます。」の感謝の気持ちを常に持ち接した。</p> <p>② 会話や挨拶は、利用者の目線に合わせて、はっきりとわかりやすく行った。</p> <p>③ ユニットで毎月の目標を決め、利用者が安心して生活が送れる様に取り組んだ。また、月に1回のユニット会で目標に沿った対応が出来たかの話し合いを持った。</p>

(4) 年間諸行事	月	行事	実施日
	4	お花見	6
	5	たこ焼き焼きそば作り	1 7
	6	新宮霧の森遠足	1 4
	7	七夕まつり	7
	8	納涼祭	1 3・1 5
		スイカ割り	3
	9	いも炊き会	2 3
	1 0	地方祭	1 0
	1 1	コスモス見学	1 0
	1 2	クリスマス会	1 6
		船木小学校児童訪問	1
	1	拝賀式	1
		初詣	4
	2	節分	3
		長寿の祝い会	1 4
3	ひなまつり	3	

※その他、毎月個別に外出（買い物、外食、自宅への外出）を行った。

## 4. 栄養

重点目標及び課題	成果等
(1) 栄養ケアマネジメントの実践	利用者毎に栄養ケアマネジメントを実施し、早期に栄養障害の改善と健康増進に取り組んだ。また、摂取機能障害及び嚥下障害のある方に、安全にのしく食べられる事を目標とし、他職種協働にて経口摂取維持を最大限支援した。
(2) 食事内容の充実化	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 個人の摂食機能に応じた安全と楽しみのある食事の提供を目指し、ソフト食の提供を行った。</li> <li>② 季節を感じ、楽しみのある行事食を提供した。</li> <li>③ より個々の要望に応えられるよう、週2回、選択食を実施した。</li> <li>④ 温冷配膳車の使用や調理工程に配慮し、適温の食事提供を行った。</li> <li>⑤ デイサービスでは2ヶ月に1度程度、行事食やおやつ作り等を行った。</li> </ul>

(3) 行事食	月	内容	料理形態
	4	お花見	弁当
	9	いもたき会	鍋
	1 2	クリスマス会・忘年会	洋食ランチ
	1	お正月	祝儀仕切折膳
	2	バレンタイン	ケーキ作り
	(4) 安全で衛生的な食事サービス	① 大量調理施設衛生管理マニュアルに準じて、食中毒予防と調理室内・調理器具の衛生管理を徹底した。	

## 5. 医務

重点目標及び課題	成果等
(1) 日常生活の健康管理	<p>① 日々、食事摂取状況、バイタル、排泄の確認、身体状況及び介護職員からの情報を把握し、個々の健康状態に努めた。</p> <p>② 個々の身体状態の異常の早期発見、早期対応に努め医療機関の受診を行った。</p>
(2) 他職種との連携	<p>① 介護職員と情報の共有を図り互いに協力し、より良い介護が提供できるようにした。</p> <p>② 年2回の健康診断(4月・10月)、随時の採血や、食事摂取状況を把握し、各職種と連携し食事内容の変更・見直しは随時行った。</p> <p>③ 経管栄養は医師の指示のもと、事故のないよう、安全・正確に注入した。</p>
(3) 薬剤・投薬の適切な管理	<p>① 定期処方・臨時処方の内容を確認し、間違いの無いようにした。</p> <p>② 臨時処方など個別に管理し、一覧表を作成することでわかりやすく整理した。</p> <p>③ 配薬準備時は、看護職員・介護職員によってダブルチェックを行った。</p>
(4) 職員への医療教育	<p>① 入職時、医務研修を実施した。</p> <p>② 救急対応、看取りの対応について、介護、看護共</p>

	に共通認識がもてる様研修会への参加・勉強会での伝達講習を行った。
--	----------------------------------

## 6.委員会活動

### ・運営委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 各ユニット、部署との情報の共有	① 共有すべき情報を提供し、運営が円滑に進むように開催した。 ② 次月の行事について、各部署の調整を行いながら実施出来るように決定した。 ③ 次年度に引き続きマニュアルの順位付けを行い、内容の見直しを各担当者が行った。 ④ 各部署、各ユニットより課題項目を議題として解決に向けて取り組みを行った。 ⑤ 苦情、重大事故については経過報告を行い、未然に防ぐ対応策の協議を行った。

### ・研修委員会

重点目標及び課題	成果等																								
(1) 内部研修の実施	① 法令や運営基準に基づく必須研修を中心に、全職員対象の研修を実施した。 <table border="1" data-bbox="716 1178 1332 1449"> <thead> <tr> <th></th> <th>必須研修名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>褥瘡対策に関する研修</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>事故防止に関する研修</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>高齢者の虐待に防止に関する研修</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>感染症及び食中毒防止のための研修</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>看取りに関する研修</td> </tr> </tbody> </table>		必須研修名	①	褥瘡対策に関する研修	②	事故防止に関する研修	③	高齢者の虐待に防止に関する研修	④	感染症及び食中毒防止のための研修	⑤	看取りに関する研修												
	必須研修名																								
①	褥瘡対策に関する研修																								
②	事故防止に関する研修																								
③	高齢者の虐待に防止に関する研修																								
④	感染症及び食中毒防止のための研修																								
⑤	看取りに関する研修																								
	② 必要に応じ職員の要望を取り入れた内部研修やその時の情勢に合った内部研修を行った。 <table border="1" data-bbox="716 1536 1332 1939"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>研修内容</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6～11</td> <td>介護講座5回シリーズ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>口腔ケア</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>事故防止について</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>感染症・食中毒</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>褥瘡について</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>県大会・四国大会報告</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>認知症・看取りについて</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	月	研修内容	実施日	6～11	介護講座5回シリーズ		5	口腔ケア	20	6	事故防止について	14	7	感染症・食中毒	14	8	褥瘡について	24	9	県大会・四国大会報告	14	10	認知症・看取りについて	12
月	研修内容	実施日																							
6～11	介護講座5回シリーズ																								
5	口腔ケア	20																							
6	事故防止について	14																							
7	感染症・食中毒	14																							
8	褥瘡について	24																							
9	県大会・四国大会報告	14																							
10	認知症・看取りについて	12																							

	1 1	感染症・インフルエンザ ノロウイルス	1 7
	1	事故防止	1 9
	3	身体拘束・虐待防止 法令順守	2 4

(2) 新任職員への研修

入職時の施設長研修を中心に、各職種に必要な基礎研修を実施した。実際の業務についてはO J Tを通して、一対一での指導を行った。

(3) 外部研修への参加

研修開催要項が到着次第開示して希望者を募った。希望者が無き場合は、施設長より指名を行い参加してもらった。研修後は、情報を全職員が共有出来るように報告会を開催した。

・給食委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 利用者個々に合った食事の提供	多職種で話し合いを行い、利用者個々に合った形態で食事を提供できるようにした。
(2) 食事内容の充実化	利用者、職員の意見を参考にし、食事内容の充実化を図り、委託業者と連携し、季節感のある食事の提供を実施した。
(3) 自然排便・排便コントロールの実施	排泄委員会や医務と連携し、自然排便を促す工夫をした。

・感染対策委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 定期的な委員会の開催	年中を通して食中毒や感染症が流行する時期を想定して事前に委員会を開催して対応策を講じた。また、経験の浅い職員については基本から指導し誤った対応をしないように指導した。状況に応じて早期に対応出来るよう都度、委員会を開催した。
(2) マニュアルの見直し	既存のマニュアルを委員が中心となって見直しを行った。また、手順書についても現実に則した内容に訂正を行った。
(3) 感染症対策広報活動	① 最新の流行情報を入手して全職員に伝達を行った。

	② 11月より4月まで、職員・利用及び面会者に、うがい・手洗い・手指消毒・マスク着用で感染防止に努めた。しかし、職員・利用者共に、インフルエンザに感染し、予防タミフルの服用も行った。
--	---

・入浴委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 利用者個々にあった入浴方法と本人の要望に添った入浴の取り組み	① 利用者の日常の生活リズムを把握し、マンツーマンでの入浴対応を行った。 ② 入浴時間や形態を本人の要望に添って入浴が出来るように行った。
(2) 安全な入浴支援への取り組み	① 入浴時の事故防止の為、入浴前入浴中の安全確認を継続して実施した。(備品やストレッチャーの動作確認) ② 体調や状態の変化に応じて、随時入浴の形態の変更を行い、安全安楽な入浴支援を行った。
(3) プライバシーの保護	入浴時、プライバシーを侵害しない為の取り組みに注意した(カーテン・タオルの使用)
(4) 快適な入浴環境の整備	① 月に1回の委員会を開催し、入浴環境、設備等の見直しを行い、快適な入浴が行えるよう改善した。 ② 入浴介助後の清掃・点検を職員に改めて注意して行うよう周知し、清潔保持に努めた。月に1回の浴室内溝清掃、半年に1回のカビ取りを実施した。 ③ 介助終了後、入浴担当者によるシャンプー類等の補充を定着させ、不備のないように努めた。
(5) 感染対策	感染症のある利用者の対応について、改めて職員に周知して介助時に実行出来るようにした。感染症のある利用者の入浴順番等にも配慮を行った。

・防災対策委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 防災訓練の実施	① 災害発生時に入居者の安全確保に迅速に対応できるように、計画的に消火訓練・避難訓練を昼間想定、夜間想定で実施した。夜間想定時には消防署員に立会をいただき火災や避難に対する指導を受けた。

	<p>② 消火・避難訓練以外も、水害、震災訓練を計画的に訓練を行い、防災対策に万全を期した。訓練前に、各部署・各ユニットへの参加周知及び参加職員との事前確認を行い、円滑に訓練を行った。</p>
(2) 地域防災	<p>地域防災協定に基づき、合同防災訓練に参加した。また、事前に行われる準備会議にも委員が出席して交流を深めた。</p>
(3) 防災活動	<p>① 日頃より、防災に関する敷地内パトロールを定期的に行い、施設内外の危険箇所を把握改善、防災設備の点検整備等の防災対策を徹底した。</p> <p>② 備蓄品や避難経路図を常日頃より確認を行い、追加購入や変更が必要な場合は適時対応をした。</p>
(4) その他	<p>社会的必要性から、外部からの侵入者による利用者への暴力行為等を防ぐため、防犯に関する指導を専門機関から受けると共に、防犯も防災活動の一環として取り組みを行った。</p>

・排泄委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 利用者個々にあった排泄の方法と褥瘡予防への取り組み	<p>① 利用者の日常の生活リズムを把握し、排泄、排便の観察を行った。「個別排泄」「自立支援」が行える様に、毎月1回の委員会にて話し合いをした。</p> <p>② 排泄介助時には皮膚観察も常に行い、褥瘡や皮膚の爛れのある方は医務との連携を取り、早期対応処置を行った。</p> <p>③ オムツ業者に依頼し、オムツの勉強会を実施する事で個々にあった物を使用する事が出来、オムツの無駄を少なくできるようになった。</p>
(2) 感染予防	<p>トイレ誘導後、オムツ交換後に職員が感染の媒体にならないように、手洗い・アルコール消毒の実施を徹底した。</p>
(3) プライバシーの配慮	<p>相手の立場にたった介助を心掛け、プライバシーに配慮した介助に努めた。</p>

(4) 環境整備	<p>① 利用者のトイレ使用时にはいつでもトイレ内が清潔に保たれているよう、掃除を徹底した。</p> <p>② 排泄委員中心に、オムツの発注・管理を行ってきたが、利用者の体調不良によりオムツの使用量が増えてきた。今後は利用者の排泄パターンや尿測を行う事でコストダウンに繋げるよう努力する。</p>
----------	--

・環境委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 朝掃除の実施	<p>① 朝清掃を実施し、施設の環境維持向上に努めた。</p> <p>② 朝清掃では、敷地内の掃き掃除、除草作業を行いました。グループ毎に1週間清掃を行い、表にチェックを入れた。</p> <p>③ 年1回ベランダ掃除を実施し、排水溝の詰まり等に注意した。</p>
(2) 施設内清掃の実施	<p>① 施設一階の清掃を毎朝実施した。</p> <p>② 施設内清掃では、玄関・廊下・事務所・トイレの清掃を重点的に行った。</p>
(3) 花の植え替え	<p>年2回プランターの花の植え替えを実施し環境美化に努めた。</p>

・褥瘡委員会

重点目標及び課題	成果等
<p>(1) 施設内の褥瘡予防対策を効果的に推進した</p> <p>・褥瘡対策委員会の構成</p> <p>・褥瘡対策委員会の開催</p>	<p>① 平成28年度褥瘡発生は、0件だった。</p> <p>② 退院時、持ち込み褥瘡があったが、直ぐ治癒</p> <p>看護職員、介護職員、管理栄養士、生活相談員、介護支援専門員、その他必要と認められる職員で構成した。</p> <p>褥瘡対策委員会は、1ヶ月に1回（定例開催以外にも必要に応じて随時）開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡及び合併する感染症の予防体制の確立</li> <li>・褥瘡予防に関する情報の収集（身体状況、皮膚状態、栄養状態等の把握）</li> <li>・施設内であった褥瘡事例の対応策</li> <li>・褥瘡予防の為のマニュアル類の整備</li> <li>・職員を対象とした褥瘡予防に関する研修の実施</li> </ul>

	<p>・その他、当施設内の褥瘡予防の為に必要な事項定期健康診断・ブレデンスケールを活用し、褥瘡ハイリスク者計画を随時立案・修正行った。</p>
--	---

・看取り委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 当たり前、あるがままの生活、我が家のような生活に沿い、安らかな最後を迎える為の、様々なサービスの充実を図る事を目的とした。	5名の看取り対象者がいたが、家族に喜んでもらった看取り介護を行えた。
(2) 看取り介護委員会の構成	施設長、医師、看護職員、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、介護職員、その他必要と認められる職員で構成しました。
(3) 看取り介護委員会の開催	<p>看取り介護委員会を、必要に応じ随時開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各職種の役割</li> <li>・看取り時の介護体制</li> <li>・看取り介護に携わる者の体制及び記録等の整備</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医師の指示書</li> <li>2 看取り介護同意書</li> <li>3 看取りカンファレンスの開催</li> <li>4 看取り介護計画書「変更、追加」</li> <li>5 経過観察記録</li> <li>6 臨終時の記録</li> <li>7 看取り介護終了後のカンファレンス会議録</li> </ol>
(4) 看取りに関する職員教育	看取り介護の目的を明確にし、死生観教育と理解の確立を図った。
(5) 施設内研修会、勉強会の開催、外部研修会への積極的参加	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 定期的な教育、研修を実施した。</li> <li>② 新任者に対する看取り介護の教育、研修を実施した。</li> <li>③ その他必要な教育、研修があれば参加した。看取り観覧研修への参加、勉強会を通し、職員への看取りに関する知識の共有を行った。</li> </ol>

・運営推進委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 施設運営の理解と透明性の確保	① 施設サービスの内容を理解した。 ② 施設生活や生活支援の実際に理解した。 ③ 「利用者や家族のニーズ」を理解した。
(2) 地域とのネットワーク作り	① 運営推進会議を通して施設の地域とのかかわりを深めた。 ② 地域住民との意見交換の場にした。 ③ 地域や地域住民が持つ「カ」や「ニーズ」を把握する場にした。
(3) 施設における施設の有効活用	① 相談・連携等がスムーズに行えるように地域の窓口となった。 ② 行政職員が持っている制度・地域状況・各種資源などの情報を提供した。 ③ 地域住民や行政職員も交えながら、利用者家族や地域住民のニーズを吸い上げ新たなサービスのあり方を検討または実施した。

・接遇委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 心得集の見直し	『言葉態度の心得集』の見直しを行い、文章を構成し直し、基本的接遇マナーの内容を追加する協議途中である為、来年に継続する。
(2) 接遇チェックシートの活用	前年度同様、接遇チェックシートの運用調整を行ない、評価対象者と評価者との確認欄とコメント欄を設けて、評価チェック以外に評価者の意見をより評価対象者に反映するように調整した。

・認知症委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 認知症に対する理解と対応について	① 毎月1回、認知症のある方の現状を理解しながら対応方法を他職種で検討した結果、色々な関わり方など話し合うことができた。 ② 水、排泄、歩行、常食に取り組み、他職種で話し合い、認知症の方が落ち着いた生活を送れる様に話し合った。

(2) 嘱託医（心療内科医）との連携	各ユニットで問題行動のある認知症の方への治療を、医務と心療内科医と連携、改善し服薬調整を行った。
(3) 認知症委員会の構成	看護、介護、事務所、デイサービス、ショートステイなど他職種で関わり情報が共有出来る様委員会で話し合った

・広報委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) ホームページの活用	事業所内での出来事などを、ブログを通して発信し、開かれた施設運営に努めた。
(2) 広報誌の発行	2ヶ月に一回広報誌を発行することにより、サービスの提供内容等を地域高齢者に向けて自治会回覧板などを活用させていただきながらお知らせした。

・口腔ケア委員会

重点目標及び課題	成果等
(1) 口腔ケアの充実	① 週1回の歯科医師と歯科衛生士による専門的口腔ケアの実施を通じて、口腔ケアに関する知識と意識を高め、統一した口腔ケアの実施に取り組んだ。 ② 口腔状態に応じたケアと用具の選定により、より効果的に実施することができた。
(2) 学習会の実施	協力歯科医師の講師にて、学習会を実施し、口腔ケアの基礎知識の習得と共通の認識を高めた。

7. 職員研修参加状況（ふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
4	26	第1回総会及び施設長研修会	松山	施設長1名
	28	第1回東予老施協施設長研修・総会	湯ノ浦	施設長1名
5	16	第12回愛媛県老人福祉施設大会	松山	介護職員1名
	30	第1回新居浜市福祉施設協議会	市内	施設長1名
6	2～3	第65回四国老人福祉施設関係者研究大会	高知県	介護職員2名
	15	接遇・コミュニケーション研修会	松山	事務員1名
7	2	防災に関する研修会	松山	施設長1名
	5	福祉用具・住宅改修基礎研修	市内	介護職員1名
	8	第1回認知症ケア研修会	松山	介護職員1名
	12	熊本地震から学ぶBCPセミナー	松山	施設長1名
	14	第1回サービス向上研修	松山	相談員1名
	26	第1回職員スキルアップ講座	市内	施設長1名
8	9	第2回サービス向上研修	松山	介護職員1名
	30	東予老施協事務職員研修	松山	施設長1名
9	10	県老施協職員連携研修会	松山	介護職員1名
	16	東予老施協生活相談員研修会	市内	相談員1名
	27	東予老施協第1回介護職員研修会	土居	介護職員1名
10	3	東予老施協介護支援専門員研修	湯ノ浦	介護職員1名
	13	東予老施協施設長と事務職員等との合同研修会	今治	相談員1名
	21	高齢者疑似体験指導者講習会	松山	相談員1名
	25	県老施協施設ケアマネジメント研修	松山	介護職員1名
	26	東予老施協機能訓練指導員研修会	湯ノ浦	介護職員1名
11	29	ノロウイルス予防体感セミナー	市内	栄養士1名
12	3	口腔ケア研修会	松山	介護職員1名
	6	東予老施協介護職員研修会	西条	介護職員1名
	8～9	四国ブロックカントリーミーティング	徳島	相談員1名
	9	県在介老人介護基本の「き」	市内	介護職員2名
	16	支援が困難と感じたときに求められるアプローチの研修	松山	相談員1名
	16	水害・土砂災害への備えに関する要配慮者利用施設の管理者向け説明会	西条	施設長1名
1	16～17	熊本地震被災地交流・視察	熊本県	施設長1名
	18	能力開発啓発セミナー「チーム力を上げるリーダーとしての人とのかわり方」	市内	介護職員1名
	27	東予老施協看護職員研修会	湯ノ浦	看護職員1名
2	10	県老施協 第2回認知症ケア研修会	松山	介護職員1名
	13	東予老施協介護職員研修会	今治	介護職員1名
	21	介護労働安定センター「魅力ある職場づくり実践セミナー」	松山	介護職員1名
3	2	東予老施協 第2回施設長研修会・総会	市内	施設長1名
	10	県老施協 第2回総会及び施設長研修会	松山	施設長1名
	17	第3回新居浜市社会福祉施設協議会	市内	施設長1名

## 8. 事業実施状況

月	保 健 衛 生	施 設 管 理	地域交流スペース利用状況
4	/1~25 職員健康診断(43名) /1~21 職員検便(44名) /25 利用者健康診断採血(29名) /15~ インフルエンザB型発生 インフルエンザB型終息	/10 受水槽清掃 /19 カーテン業者交替、取り替え	/4 /11 /18 /25 移動販売ふたば屋 /5 /7 /12 /14 19 /21 /26 /28 清掃ボランティア1名
5	/14~22 入居者健康診断(29名) /31 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/16 カーテンフック総点検 /17 全館ワックス /13 EV定期点検 /24 全館ワックス	/20 内部学習会「口腔ケア」(34名) /9 /16 /23 /30 移動販売ふたば屋 /10 /12 /17 /19 /24 /26 /31 清掃ボランティア1名 /27 運営推進会議19:00~
6	/30 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/4 荷物用EV点検 /6 受水槽防虫網取付け /9 避難訓練	/14 内部学習会「事故防止」(40名) /17 介護講座①「介護とは何か」(24名) /2 /7 /9 /14 /16 /21 /23 /28 /30 清掃ボランティア1名 /6 /13 /20 /27 移動販売ふたば屋
7	/30 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/8 電気設備点検	/14 内部学習会「感染症食中毒」(38名) /22 介護講座②「残った機能と失った機能」(20名) /4 /11 /18 /25 移動販売ふたば屋 /5 /12 /14 /19 /26 /28 清掃ボランティア1名
8	/31 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/1 建物メンテナンス(一宮工務店) /27 浄化槽ポンプフロート交換 /31 EV定期点検	/5 運営推進会議19:00~ /24 内部学習会「褥瘡予防」(29名) /1 /8 /22 /29 移動販売ふたば屋 /2 /4 /9 /23 /25 /30 清掃ボランティア1名
9	/16 入居者レントゲン撮影16:00~ /30 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/3 水防訓練 /29 消防設備点検 /29 浄化槽点検 /3 荷物用EV点検	/2 介護講座③「認知症高齢者のケア」(25名) /14 内部学習会「県大会、四国大会 重度化・看取り・認知症 発表」(32名) /28 運営推進会議19:00~ /5 /12 /19 /26 移動販売ふたば屋 /1 /6 /8 /13 /27 /29 清掃ボランティア1名
10	/5~24 職員健康診断(18名) /8 利用者健康診断採血(29名) /30~ インフルエンザ予防接種(職員38名) /31 入居者健康診断(28名) /31 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/26 避難訓練 /8 電気設備点検	/4 介護講座④「生活リハビリとは何か」(25名) /12 内部学習会「認知症、看取り」(21名) /3 /10 /24 /31 移動販売ふたば屋 /4 /6 /11 /13 /20 /25 /27 清掃ボランティア1名
11	/6 インフルエンザ予防接種(入居者27名) /30 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/10 EV定期点検	/17 内部学習会「感染症インフルエンザ ノロウイルス」(32名) /18 介護講座⑤「起きる・座る・立ち上がる」(15名) /22 運営推進会議19:00~ /7 //14 /21 /28 移動販売ふたば屋 /1 /8 /10 /15 /17 /22 /24 29 清掃ボランティア1名
12	/28 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/3 荷物用EV定期点検	/5 /12 /19 /26 移動販売ふたば屋 /1 /6 /8 /13 /15 /20 /22 清掃ボランティア1名
1	/31 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/21 電気設備点検 /23 サーバー修繕	/19 内部学習会「事故防止」(28名) /24 運営推進会議19:00~ /9 /16 /23 /30 移動販売ふたば屋 /10 /12 /17 /19 24 /26 /31 清掃ボランティア1名
2	/28 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)		/6 /13 /20 /27 移動販売ふたば屋 /2 /7 /9 /16 23/ 28 清掃ボランティア1名
3	/31 栄養士検便(1名)+外部委託調理員(4名)	/21 震災訓練10:00~ /31 消防設備点検	/15 内部学習会「身体拘束・虐待防止」(29名) 法令遵守」(25名) /23 運営推進会議19:00~ /6 /13 /20 /27 移動販売ふたば屋 /7 /14 /16 /21 /23 /28 /30 清掃ボランティア1名

# 特養利用者の概要

## (1)利用者の状況

平成29年3月31日現在

### 保険者別入所状況

保険者別	男	女	計
新居浜市	6	23	29
合計	6	23	29

地域密着型介護老人福祉施設であることから全員が新居浜市在住者となっている。

### 在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
5年以上～10年未満	0	6	6	21%
3年以上～5年未満	1	3	4	14%
1年以上～3年未満	1	8	9	31%
1年未満	4	6	10	34%
合 計	6	23	29	100%

平均利用期間は30.3ヶ月となっている。

### 年齢構成

区分	65歳未満	65～74	75～79	80～84	85～89	90～100	101～	平均
男	0	0	3	2	1	0	0	80
女	0	0	4	4	7	7	1	87.2
合計	0	0	7	6	8	7	1	85.7

①平均年齢は約85.7歳となっている。

②最高齢者は、男性85歳、女性101歳で、最も若い利用者は、男性75歳、女性79歳である。

### 要介護度の状況 (H29年3月)

[要介護度]

介護度	年齢区分	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	64歳以下							
	65～69歳							
	70～74歳							
	75～79歳			1	1	1	3	4
	80～84歳			2			2	3
	85～89歳			1			1	3
	90以上							
	64歳以下							

女性	65～69歳							
	70～74歳							
	75～79歳				3	1	4	4
	80～84歳				2	1	3	4
	85～89歳	1		3	1	3	8	4
	90以上			2	4	2	8	4
	男 性	0	0	4	1	1	6	3.50
	女 性	1	0	5	10	7	23	3.96
	合 計	1	0	9	11	8	29	3.86
前年度実績		1	2	8	11	6	28	3.68

平均要介護度は前年に比べて若干あがった。

## (2)入退所状況

### 利用者状況

〔月別新規入所者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	5
女	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	1	0	6
計	0	1	0	2	2	2	0	1	1	1	1	0	11

〔入所前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	2	1	1	0	0	0	1	0	5
女	2	0	2	1	1	0	0	0	6
計	4	1	3	1	1	0	1	0	11

〔新規利用者世帯状況〕

	単身	夫婦	未婚子同居	既婚子同居	その他	合計
男	0	5	0	0	0	5
女	1	0	1	3	1	6
計	1	5	1	3	1	11

## 退所者状況

[退所理由]

	家庭復帰	入院継続	転居	死亡(施設)	死亡(病院)	施設移動	合計
男	0	3	0	3	0	0	6
女	0	1	0	3	1	0	5
計	0	4	0	6	1	0	11

[月別退所者]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	1	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	6
女	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	1	0	5
計	0	1	2	1	1	2	1	1	0	1	1	0	11

11名の方が退所となり、その内死亡による退所は7人となっている。

### (3) 日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

#### 日常生活動作の状況

[利用者29名]

項目	動作内容	男	女	計	項目	動作内容	男	女	計
移動	時間がかかっても介助なしに一人で歩く	2	5	7	入浴	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	6	6
	手を貸してもらうなど一部介助を要する	2	1	3		体を洗ってもらうなど一部介助を要する	4	4	8
	全面的に介護を要する	2	17	19		全面的に介護を要する	2	13	15
食事	やや時間がかかっても介助なしに食事する	2	7	9	着替	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	1	6	7
	おかずを刻んでもらうなど一部介助を要する	2	6	8		袖を通してもらうなど一部介助を要する	3	4	7
	全面的に介護を要する	2	10	12		全面的に介護を要する	2	13	15
排泄	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	1	5	6	整容	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	3	6	9
	便器に座らせてもらうなど一部介助を要する	3	8	11		タオルで顔をふいてもらうなど一部介助を要する	1	7	8
	全面的に介護を要する	2	10	12		全面的に介護を要する	2	10	12

平均介護度の上昇により、一部介助が多くなっている。

#### 日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者29名]

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	0
ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	3

準寝たきり	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	5
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	6
	2 介助により車椅子に移乗する。	8
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	1
	2 自力では寝返りもうたない。	6

## 認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者 29名]

項目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	1
ランク I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	1
ランク II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記 II の状態が見られる。	1
	b 家庭内でも上記 II の状態が見られる。	1
ランク III	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記 III の状態が見られる。	10
	b 夜間を中心として、上記 III の状態が見られる。	7
ランク IV	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	7
ランク M	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	1

### (4)ケアプラン実施状況

[ケアプラン：立案状況]

項目	水分	離床	食事	整容	排泄	生きがいづくり	声かけ コミュニケーション	居場所の 確認
人数	8	5	18	0	4	7	1	0
項目	日常生活 の援助	精神の安定	皮膚観察	医療面	姿勢保持	口腔	褥瘡 ハリス	運動
人数	4	2	1	1	3	29	2	7

①個々のケアプランはそれぞれ複数となっているが、その内、最も重要と思われるもの各1を挙げている。

②個々のケアプランについては、包括的自立支援プログラム方式により6ヶ月毎及び状態に応じケアカンファレンスにて見直し立案を行い、サービス計画に基づいて毎日実践し、その状況を記録している。

[ケアカンファレンス：立案人数／家族参加状況]

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
立案人数	3	4	8	12	11	4	6	7	10	11	5	5	86
家族数	3	4	6	4	5	3	3	7	7	6	3	4	55

ケアカンファレンス開催時55名のご家族が参加され、その割合は64%となっており本人やご家族の要望等を取り入れながらケアプランに反映させるよう努めました。

(5)利用者医療状況  
疾 病 状 況

順	疾病名	人数	順	疾病名	人数
1	便秘症	26	35	脳血管性認知症	1
2	高血圧症	19	36	狭心症	1
3	脳梗塞後遺症	6	37	アルコール性認知症	1
4	老人性認知症	9	38	アルコール性精神病	1
5	糖尿病	7	39	高脂血症	1
6	骨粗鬆症	12	40	股関節変形症	1
7	アルツハイマー型認知症	9	41	統合失調症	1
8	胸椎・腰椎圧迫骨折	4	42	C型肝炎	1
9	大腿骨頸部骨折	5	43	ペースメーカー	1
10	レビー小体型認知症	1	44	不定愁訴	1
11	心不全	3	45	僧帽弁閉鎖不全	1
12	パーキンソン病	3	46	関節リュウマチ	1
13	心筋梗塞	1	47		
14	変形性膝関節症	6	48		
15	尿路感染症	5	49		
16	腰痛症	4	50		
17	胃瘻増設	4	51		
18	心経因性膀胱	2	52		
19	肺炎	8	53		
20	慢性腎不全	1	54		
21	変形性脊椎症	2	55		
22	呼吸不全	2	56		
23	脳出血後遺症	3	57		
24	白内障	5	58		
25	うつ病	4	59		
26	心房細動	2	60		
27	前立腺肥大	2	61		
28	症候性てんかん	2	62		
29	頸椎損傷	1	63		
30	硬膜下血腫	1	64		
31	前立腺癌	1	65		
32	たこつぼ心筋症	1	66		
33	慢性中耳炎	2	67		
34	胆石症	1	合 計		176

現在治療中の疾病について、1人で複数の疾病を持っている方が多く、特に高齢者の特徴である、習慣性の便秘症・高血圧・脳梗塞・認知症が多くなっている。

### 受診状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
実人数	9	10	11	10	6	17	11	10	7	6	6	9	112	9.3	0.31
延人数	12	14	15	13	8	22	18	14	7	6	11	12	152	12.7	0.42

ご家族の要望での医療機関受診は、積極的に行っている。但し急変による心臓・脳血管疾患骨折等は、当施設で対応困難である為、医療機関での治療をお願いしている。

### 入院状況

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	2	5	6	5	4	4	4	5	5	3	4	3	50	4.2	
延日数	6	66	65	76	87	47	59	74	37	24	45	46	632	52.7	1.7

状態の悪化により、本人や家族の希望で受診・入院することがあるが、家族から終末を施設で迎えたいとの要望がある場合は、説明と同意を得てターミナルケアを実施している。

### 精神科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24	2.0
実人数	18	18	17	16	16	16	16	17	17	18	18	19	206	17.2
延人数	35	35	33	32	32	31	31	33	33	35	35	35	400	33.3

精神科医の往診が月2回あり、認知症で周辺症状がある場合は、診察を受け、その診断を処遇に生かしている。

### 歯科往診

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均
回数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48	4.0
実人数	29	27	27	27	26	27	28	29	28	28	27	28	331	27.6
延人数	116	108	108	108	104	108	112	116	112	112	108	112	1324	110.3

歯科医師の往診を受け、口腔治療をおもに行っていた。歯科医の往診も継続し治療が行えている。

### 施設内処置状況

項目/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内服	実人数	29	29	27	28	28	28	27	27	27	28	27	27	332
	延べ人数	2439	2343	2189	2370	2523	2358	2352	2249	2392	2518	2213	2482	28,428
注射	実人数	1	1	1	3	2	2	1	4	0	2	8	3	28
	延べ人数	5	7	29	12	6	8	4	13	0	11	42	37	174
インシュリン	実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
	延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	28	31	90
浣腸	実人数	15	16	13	16	14	12	15	13	16	13	15	16	174
	延べ人数	88	91	78	92	82	74	80	74	80	81	83	90	993

高齢者の特徴である、習慣性の便秘症が多く、緩下剤内服調整にて排便コントロール行っているが便秘症状継続し浣腸の使用頻度が多かった。

身体合併症（心疾患、高血圧症、etc）で内服継続の利用者が増えている。

なお、経管栄養者（胃ろう：2名 鼻腔：1名 10.3%を占めている）となっている。

## (6) 身体拘束ゼロ活動

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1. 車椅子拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. チューブ拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3. つなぎ服拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. ミトン型手袋による拘束	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
延べ日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年も身体拘束ゼロについては、施設全体で取り組んでおり、身体拘束防止委員会を設置し、利用者の身体拘束を個別に検討し、福祉用具の導入や現在行われている介護を見直し、よりよいケアの実現を目指すよう努力している。委員会メンバーは・施設長・主任事務員・生活相談員・介護部長・介護副部長・看護職員・栄養管理部長・業務部長及び、グループ職員からの構成になっている。

尚、運営基準で利用者の生命又は身体を保護するため、緊急やむを得ない場合を除き、行動を制限する行為を行ってはならないと規定されており、身体拘束などを行う場合には、その対応及び時間、利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由を記録しなければならない。また、その際は、利用者本人や家族に対して詳細な説明と十分な理解を得る必要がある。現在身体拘束は実施していない。

### 【拘束例】

1. 車椅子拘束とは、車椅子からずり落ちたり・立ち上がったりにしないようにY字型拘束帯や腰ベルトを使用する事。
2. チューブ拘束とは、点滴・経管栄養等のチューブを抜かないように、四肢をひもなどで縛る行為。
3. つなぎ服拘束とは、脱衣やオムツはずしを制限するために、介護衣（つなぎ服）を着せる行為。
4. その他の拘束とは、自分で降りられないようにベッドを柵（サイドレール）で囲んだり、手指の機能を制限するミトン型の手袋をつけたり、自分の意志で開けることの出来ない居室等に隔離する行為である。

## (7) 機能訓練実施状況

個別機能訓練を行うにあたっては、ケアプランと連動しながら個別機能訓練計画に基づき機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員、その他の職種の者が協働して計画的に実施している。また、機能回復訓練のひとつに、作業療法士が担当するリハビリテーションがあるが、これは医療行為であるために医師の情報提供書、又はリハビリ訓練の指示箋が必要なので、骨折などで入院し、退院後も当施設で継続して訓練が必要な時、又は、新規入所時においても、在宅のリハビリを継続して希望されるときは、かかりつけ医の情報提供書、又はリハビリ指示箋に基づいて実施している。

## 〔個別訓練実施内容〕

項目／月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
機能訓練	実人数	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
	実施延人数	323	285	289	314	316	300	311	212	166	143	112	157	2,928
	回数	16	14	14	16	16	15	16	11	8	7	5	8	146

## (8) ユニットケア実施状況

実施日	行事内容	場 所	グループ別 参加利用者数				計
			さくら	ふじ	いちよう	もみじ	
4/6	合同花見	近隣グラウンド	9	9	10	7	35
6/14	霧の森遠足	霧の森（新宮）	0	0	4	4	8
6/17	紫陽花見物	池田池	3	3	0	0	6
8/3	スイカ割り	施設内	1	2	3	13	19
8/13	元船木夏祭り	近隣グラウンド	8	7	7	6	28
8/15	船木ふるさと夏祭り	船木小学校	7	7	6	7	27
8/31	長寿のお祝い	施設内	10	9	10	12	41
9/16	ぶどう狩り	丹原ゆきもと農園	0	3	0	0	3
9/23	芋たき敬老会	施設内	10	9	10	11	40
11/28	紅葉見物	マイントピア別子	0	3	0	0	3
1/4	初詣	施設内	3	4	4	4	15
							0
合 計			51	56	54	64	225

## 個別ケア 実施状況

## 《さくらユニット》

(入浴実施状況： 2回／週)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
仰臥位入浴	30	48	46	47	48	47	48	47	48	47	38	46	540
座位入浴	24	25	28	30	30	28	30	27	30	30	25	30	337
自立補助入浴	5	7	8	8	8	8	8	7	8	8	6	8	89
自立入浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シャワー浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	59	80	82	85	86	83	86	81	86	85	69	84	966

(行事・レク実施状況)

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
外出、買い物、外食	0	0	0	0	0	4	0	0	3	0	0	2	9
美容、理容	7	4	7	3	5	5	4	7	4	6	5	7	64

季節行事	10	0	3	0	4	0	13	3	0	2	0	0	35
お誕生会	2	0	0	3	1	0	1	0	0	1	0	2	10
合計	19	4	10	6	10	9	18	10	7	9	5	11	118

《ふじユニット》

(入浴実施状況：2回/週)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	18	29	41	32	24	43	41	42	37	46	34	36	423
座位入浴	13	18	23	25	18	20	30	10	16	14	6	15	208
自立補助入浴	4	5	13	13	6	12	9	10	10	10	16	19	127
清拭	37	13	2	3	0	0	4	0	0	0	25	5	89
シャワー浴	3	3	7	5	0	0	0	0	0	0	0	5	23
合計	75	68	86	78	48	75	84	62	63	70	81	80	870

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出、買い物、外食	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
美容、理容	3	2	4	3	3	2	5	2	5	1	5	4	39
季節行事	8	0	7	1	5	11	16	2	9	3	0	0	62
お誕生会	1	1	1	1	0	2	0	0	1	2	0	0	9
合計	13	4	13	6	8	15	21	4	15	6	5	4	114

《いちょうユニット》

(入浴実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
仰臥位入浴	28	31	35	31	32	30	25	21	21	20	11	19	304
座位入浴	21	21	24	31	33	28	28	37	39	36	23	33	354
自立補助入浴	17	17	17	27	28	27	24	24	24	27	19	24	275
自立入浴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シャワー浴	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5
合計	67	70	77	89	94	84	77	82	84	83	53	76	936

(行事・レク実施状況)

項目/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
美容・理容など	0	3	2	5	4	6	5	2	1	1	0	2	31
外出・外食・買い物	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
季節行事	10	0	6	0	10	9	9	0	9	3	0	0	56
お誕生会	1	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	2	9
合計	11	7	8	5	16	16	15	2	11	4	0	4	99

## 面会・外出・外泊状況

月／項目	面 会		外出	外 泊	
	利用者	人数	人数	人数	泊数
4月	79	102	1		
5月	131	159	1		
6月	171	216	1		
7月	192	248	4	1	1
8月	202	294	5		
9月	193	239	5		
10月	192	232	5		
11月	199	249	2		
12月	275	350	2		
1月	269	332	3		
2月	238	299	1		
3月	251	313	1		
合計	2,392	3,033	31	1	1
月平均	199.3	252.8	2.6	0.1	0.1

①月平均 199回

②外出について、通院及び施設行事は除いている。

## 実施活動実施状況

実習期間	内容	人員
12/15	市役所研修	3
合 計		3

## 施設見学

日時	内容
H28. 4. 20	入所希望 1名
H29. 8. 22	入所希望 1名
H29. 9. 23	入所希望 1名
H29. 1. 7	入所希望 2名
H29. 3. 3	入所希望 1名
H29. 3. 4	入所希望 1名
合 計	7名

## 給食栄養状況

栄養ケアマネジメントの実施により、一人ひとりの栄養ケアプランが十分に実施されるよう、他職種協働で取り組みを行い、利用者の個別性に対応している。

## 栄養ケアマネジメント

月	ケアマネジメント実施数 (人)	低 リスク	中 リスク	高 リスク	リスク 未定	合 計
4月	29	23	5	1	0	29
5月	29	19	9	1	0	29
6月	29	20	8	1	0	29
7月	29	19	7	3	0	29
8月	29	19	8	2	0	29
9月	29	19	9	1	0	29
10月	29	19	9	1	0	29
11月	29	19	8	2	0	29
12月	29	21	7	1	0	29
1月	29	18	10	1	0	29
2月	29	17	11	1	0	29
3月	29	17	10	2	0	29
合 計	348	230	101	17	0	
月平均	29.0	19.2	8.4	1.4	0.0	

栄養ケアマネジメントによる一人ひとりへの細かいプランを立て実施している。低栄養改善への早期アプローチにて、健康増進に繋げている。

## 食事の状況

	主 食					副 食				
	普通	握食	粥食	ミキサー	経管	普通	刻食	ミキサー	ソフト	経管
居 室	2	2	2	1	3	1	2	1	3	3
食 堂	11	4	3	1	0	7	9	0	3	0
合 計	13	6	5	2	3	8	11	1	6	3

## 行事食の献立状況

月 日	行 事 名	献 立
4/6	お花見	散らし寿司・鶏の唐揚げ・サバの塩焼き・菜の花和え・漬物・桜餅・果物
5/1	開設記念日	赤飯・天ぷら・白和え・潮汁・果物
5/5	こどもの日	オムライス・ビーンズサラダ・オニオンスープ・果物
7/7	七夕	七夕素麺・おにぎり・もち米蒸し・小松菜のツナ和え・七夕ゼリー
7/30	土用の丑の日	うなぎ散らし・蓮根団子・いんげんのピーナッツ風味・すまし汁・果物
9/23	いもたき会	炊き込みご飯・芋炊き・白和え・果物・牛乳・ジュース
9/19	敬老の日	赤飯・サバの塩焼き・炊き合わせ・茶碗蒸し・果物
10/17	お祭り	祝い寿司・かき揚げ・しろなのレモン和え・茶碗蒸し・果物
10/31	ハロウィン	ご飯・グラタン・フレンチサラダ・スナップエンドウの洋風炒め・牛乳
12/20	クリスマス会	きのこピラフ・ミートローフ・海草サラダ・コンソメスープ・サイダー寒天
12/31	大晦日	年越しそば・炒り豆腐・おにぎり・果物
1/1	お正月(祝い膳)	赤飯・ブリの照り焼き・栗きんとん・菊花かぶ・伊達巻・煮物・数の子 柚子おろし・祝かまぼこ・サケマリネ・紅白素麺の清汁・果物
2/3	節分	巻寿司・鶏の唐揚げ・もやしの磯辺和え・赤だし・たまごボーロ
3/3	ひなまつり	菜の花ちらし・炊き合わせ・カリフラワーの昆布茶和え・のっぺい汁・ひなあられ

・選択食・・・・・・・・週2回(昼食に実施)

# ショートステイふたばの森

## 総合目標及び課題

利用者及びご家族が安心して在宅生活を継続できるよう、内外部との連携を取り合い支援した。

## 1.生活相談員

重点目標及び課題	成果等
(1) ショートステイの稼働率の維持・向上のための取り組み	年間平均稼働率85%を目標とし、維持向上できるように、下記内容に努めた。 ① 継続的な利用をしていただけるよう、家族・ケアマネと情報を共有し、利用者本人・家族が安心して利用できるよう努めた。長期間利用がなかった方の利用の再開の際は面接等を行い、ご家族、ケアマネ、各部署と情報を共有し、安心した利用をしていただくことができた。 ② 緊急的な利用者の受け入れについて柔軟に対応できるように努めた。 ③ 新規利用者の受け入れ時には、綿密な情報収集を行うと共に、説明不足によるトラブルのない様に心がけた。 ④ 施設見学や問い合わせの際は、施設の特徴などを丁寧に説明することで新規の利用につなげることができた。

## 2.介護

重点目標及び課題	成果等
(1) 個別ケアの充実	① 利用者個人の尊厳を守り、個人の能力に応じての自立支援を援助し、タオル畳み等の軽作業をしてもらうなど日常生活を送る事が出来るよう介護を行った。 ② ユニット内で食事時間に合わせて炊飯して炊きたてのご飯を提供、家庭の雰囲気を作る様にした。 ③ 利用者の体調管理に留意し、変化時には家族及び他職種との連携を図り、早急・柔軟な対応を行った。

<p>(2) 統一したサービス支援の提供</p>	<p>① 新しい取り組みの開始時には、ユニット内での相談（月1回のユニット会等）を行い、個人単独での判断で業務効率を優先せず、利用者本位を最優先に考えたサービス支援を行った。</p> <p>② 介護支援専門員を中心に他職種協働で、利用者一人ひとりの生活全般の状況を総合的に把握し、本人・家族のニーズに応じたケアプランを作成し、実践・評価を行った。</p>																																							
<p>(3) 接遇の共通認識</p>	<p>① 挨拶は利用者の目線で顔を見ながら笑顔でしっかりと行った。</p> <p>② 利用者との会話を多くし、利用者一人ひとりの気持ちや要求を理解をする事に努めた。</p> <p>③ 利用者個人の個性や人柄を大切にした対応をすることを心掛けた。</p> <p>④ 「ありがとうございます」の感謝の気持ちを常に持ち利用者と多く関わった。</p>																																							
<p>(4) 年間諸行事</p>	<table border="1" data-bbox="718 1019 1332 1601"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>行事</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>お花見</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>たこ焼き焼きそば作り</td> <td>1 7</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>遠足（霧の森）</td> <td>1 4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>紫陽花見物</td> <td>2 1</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>スイカ割り大会</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>夏祭り</td> <td>1 3・1 5</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>芋炊き会</td> <td>2 3</td> </tr> <tr> <td>1 0</td> <td>太鼓祭り見学</td> <td>1 6</td> </tr> <tr> <td>1 2</td> <td>船木小学校訪問</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>新年式</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>初詣</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>賀寿の祝い</td> <td>1 4</td> </tr> </tbody> </table>	月	行事	実施日	4	お花見	6	5	たこ焼き焼きそば作り	1 7	6	遠足（霧の森）	1 4		紫陽花見物	2 1	8	スイカ割り大会	3		夏祭り	1 3・1 5	9	芋炊き会	2 3	1 0	太鼓祭り見学	1 6	1 2	船木小学校訪問	1	1	新年式	1		初詣	4	2	賀寿の祝い	1 4
月	行事	実施日																																						
4	お花見	6																																						
5	たこ焼き焼きそば作り	1 7																																						
6	遠足（霧の森）	1 4																																						
	紫陽花見物	2 1																																						
8	スイカ割り大会	3																																						
	夏祭り	1 3・1 5																																						
9	芋炊き会	2 3																																						
1 0	太鼓祭り見学	1 6																																						
1 2	船木小学校訪問	1																																						
1	新年式	1																																						
	初詣	4																																						
2	賀寿の祝い	1 4																																						

短期入所生活介護の利用状況

H29.3.31現在

		合計	H28. 04	H28. 05	H28. 06	H28. 07	H28. 08	H28. 09	H28. 10	H28. 11	H28. 12	H29. 01	H29. 02	H29. 03
稼働日数		365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	13	13.2	13.6	13.8	15.1	12.7	12.9	12.8	14.2	13.4	12.3	10.1	11.2
稼働率		80.9%	82.3%	85.3%	86.3%	94.2%	79.2%	80.4%	80.2%	88.8%	83.5%	76.6%	63.4%	70.0%
新規利用者実人数	計	38	4	1	2	4	4	4	5	3	2	2	0	7
	男	12	1		1	2	1	2	3	0	0	0	0	2
	女	26	3	1	1	2	3	2	2	3	2	2	0	5
利用実人数	計	—	54	54	54	54	46	46	48	47	49	46	39	50
	男	—	14	13	14	13	8	9	11	9	10	9	8	10
	女	—	40	41	40	41	38	37	37	38	39	37	31	40
介護度別														
要支援1	計	—			1									
	男	—												
	女	—			1									
要支援2	計	—				1								1
	男	—												
	女	—				1								1
要介護1	計	—	5	5	5	6	8	9	7	6	7	5	3	4
	男	—							1					
	女	—	5	5	5	6	8	9	6	6	7	5	3	4
要介護2	計	—	13	11	8	13	8	8	10	12	14	15	12	17
	男	—	2	1	1	2	1	3	2	1	1	1		1
	女	—	11	10	7	11	7	5	8	11	13	14	12	16
要介護3	計	—	15	14	19	16	15	13	13	11	10	10	9	12
	男	—	4	3	7	5	3	2	2	2	2	2	3	4
	女	—	11	11	12	11	12	11	11	9	8	8	6	8
要介護4	計	—	15	19	16	12	11	12	13	13	12	12	11	11
	男	—	4	5	4	3	3	2	4	4	4	3	3	3
	女	—	11	14	12	9	8	10	9	9	8	9	8	8
要介護5	計	—	6	6	6	6	4	4	5	5	6	4	4	5
	男	—	4	4	3	3	1	2	2	2	3	3	2	2
	女	—	2	2	3	3	3	2	3	3	3	1	2	3
その他	計	—												
	男	—												
	女	—												
利用延べ人数	計	4727	395	423	414	467	393	386	398	426	414	380	284	347
	男	1157	107	97	108	121	80	84	105	125	113	99	62	56
	女	3570	288	326	306	346	313	302	293	301	301	281	222	291
介護度別														
平均要介	計	3.1	3.1	3.2	3.1	3	3	2.9	3.1	3.3	3.2	3.2	3.1	3
	男	3.8	4.1	4	3.6	3.5	3.7	3.5	3.5	3.8	4	4	4	3.8
	女	2.9	2.8	2.9	2.8	2.9	2.8	2.7	2.9	3	3	2.9	2.8	2.9
要支援1	計	5			5									
	男													
	女	5			5									
要支援2	計	14				7								7
	男													
	女	14				7								7
要介護1	計	457	38	36	39	44	67	66	40	38	29	20	18	22
	男	1							1					
	女	456	38	36	39	44	67	66	39	38	29	20	18	22
要介護2	計	1082	103	96	73	92	61	73	80	72	99	124	95	114
	男	100	10	8	6	14	4	16	19	5	6	10		2
	女	982	93	88	67	78	57	57	61	67	93	114	95	112
要介護3	計	1191	83	86	147	149	114	105	118	110	89	70	52	68
	男	359	22	20	52	58	35	26	29	31	27	21	16	22
	女	832	61	66	95	91	79	79	89	79	62	49	36	46

構成比 (%)	要介護4	計	1471	112	167	114	136	119	115	129	157	135	105	91	91	
		男	384	23	36	26	29	26	24	34	67	46	27	31	15	
		女	1087	89	131	88	107	93	91	95	90	89	78	60	76	
	要介護5	計	507	59	38	36	39	32	27	31	49	62	61	28	45	
		男	313	52	33	24	20	15	18	22	22	34	41	15	17	
		女	194	7	5	12	19	17	9	9	27	28	20	13	28	
	その他	計														
		男														
		女														
	構成比 (%)															
	介護度別															
		要支援1	0.1			1.2										
		要支援2	0.3				1.5									2
		要介護1	9.7	9.6	8.5	9.4	9.4	17	17.1	10.1	8.9	7	5.3	6.3	6.3	
		要介護2	22.9	26.1	22.7	17.6	19.7	15.5	18.9	20.1	16.9	23.9	32.6	33.5	32.9	
	要介護3	25.2	21	20.3	35.5	31.9	29	27.2	29.6	25.8	21.5	18.4	18.3	19.6		
	要介護4	31.1	28.4	39.5	27.5	29.1	30.3	29.8	32.4	36.9	32.6	27.6	32	26.2		
	要介護5	10.7	14.9	9	8.7	8.4	8.1	7	7.8	11.5	15	16.1	9.9	13		
	その他															
性別																
	男	24.5	27.1	22.9	26.1	25.9	20.4	21.8	26.4	29.3	27.3	26.1	21.8	16.1		
	女	75.5	72.9	77.1	73.9	74.1	79.6	78.2	73.6	70.7	72.7	73.9	78.2	83.9		

# デイサービスセンターふたばの森

## 総合目標及び課題

利用者一人ひとりの意思、人格を尊重し利用者の立場に立った指定通所介護事業及び指定介護予防通所事業を実施し、身心機能の維持向上や社会的孤立感の解消、家族の身体的、精神的負担の軽減を図り、利用者の在宅生活支援を目的とした。

## 1.生活相談員

重点目標及び課題	成果等
(1) 稼働率の維持・向上の取り組み	年間平均稼働率80%の目標に対して76.5%だった。  ① 平成28年12月から新たに20名近い新規利用者の受入れをすることができ、以降順調に新規獲得に力を入れていたが、2月のインフルエンザ流行により4日間デイを閉鎖することとなった。 ② 曜日変更や利用回数の変更等、家族や居宅支援事業所、地域のニーズに応え、利用者に異常が見られた場合は迅速に情報の提供を行った。 ③ 利用者一人ひとりのニーズ及び心身の状態を的確に把握し、地域での暮らしを支える支援を構築することに努めた。

## 2.介護

重点目標及び課題	成果等
(1) 介護 ・質の高い介護サービスの提供	昨年から引き続きポイント制度を利用した利用者個別のニーズに対応した個別処遇に重点を置き、「利用者が何かしてもらおうデイサービス」ではなく「自ら楽しみを発見し行動を起こせるデイサービス」と目標とした。 ・食事 食事時の雰囲気気を配り、四季折々に季節感あふれる食事や、行事に伴う献立を提供した。 ・入浴 異常に十分配慮しながら、快適かつ安全に入浴できるように援助を行い、清潔の保持・心身のリフレッシュに努めた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄 利用者の尊厳に十分配慮しながら、個々のペースに合わせて排泄が気持ちよく行えるよう支援し、同時に健康状態の把握を行った。</li> <li>・資質向上 各種研修会に積極的に参加し、知識・技術の向上に努めた。また外部研修等については、部署会にて報告し、職員全体で知識・技術を共有しサービスの質の向上に努めた。</li> </ul>
--	--

### 3.看護

重点目標及び課題	成果等
(1) 健康管理	① 利用者の健康状態を観察、把握し健康管理及び健康指導に努めた。また緊急時には家族及び主治医との連携による迅速かつ最善の対応に努めた。 ② 感染症予防の為の適切な対応および対策の徹底に努め感染の拡大を防いだ。

### 4.健康長寿地域拠点作り

平成28年度より新居浜市の事業として開始された。

住民が実施主体となって、自治会館等を活用した通いの場を作り、高齢者が健康づくり（PPK体操）や仲間づくりに取り組めるよう技術的な支援をすることを目的とした。

#### 担当自治会一覧

城主自治会	(H28. 6月～)
吉岡自治会	(H28. 6月～)
北内ハイツ自治会	(H28. 6月～)
篠場自治会	(H28. 6月～)
篠場団地自治会	(H28. 9月～)
本郷自治会	(H28. 10月～)
光明寺自治会	(H29. 1月～)
七宝台自治会	(H29. 2月～)

職員研修参加状況（デイサービスセンターふたばの森）

月	日	内容	場所	出席者
5	16	第12回愛媛県老人福祉施設大会	松山	看護職員1名
6	2~3	第65回四国老人福祉施設関係者研究大会	高知県	介護職員1名
7	2	防災に関する研修会	松山	相談員1名
7	5	第1回東予老施協デイサービス直接処遇職員研修会	今治	相談員1名
7	26	第1回職員スキルアップ講座	市内	相談員1名
7	30	第1回デイサービスセンター職員研修会	松山	介護職員1名
11	5	第2回デイサービス直接処遇職員研修	西条	介護職員1名
11	17	認知症の「困った」を解決する研修	松山	介護職員1名
11	22	東予老施協 デイサービス管理者研修会	市内	相談員1名
12	20	感染症予防	松山	看護職員1名
1	4~7	認知症介護実践者研修（第2期）	松山	相談員1名
1	18	能力開発啓発セミナー「チーム力を上げるリーダーとしての人のかかわり方」	松山	相談員1名
1	21	デイサービス職員研修会	松山	相談員1名
2	10	認知症介護実践者研修（第2期）	松山	相談員1名
3	2~3	認知症対応型サービス事業管理者研修(第2期)	松山	相談員1名

## 【平成28年度 利用者年齢層×介護度】

利用者／介護度		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	その他	合計
65～ 69歳	計			2						2
	男			1						1
	女			1						1
70～ 74歳	計					1		1		2
	男							1		1
	女					1				1
75～ 79歳	計			5	3	3	1		2	14
	男			3	0	2				5
	女			2	3	1	1		2	9
80～ 84歳	計		4	5		3	4		4	20
	男					2			1	3
	女		4	5		1	4		3	17
85～ 89歳	計	3	3	9	8	3	2	2	5	35
	男			2	1	1			4	8
	女	3	3	7	7	2	2	2	1	27
90歳以上	計	5	5	10	12	6	7	1	6	52
	男	1	1	2	2	3			2	11
	女	4	4	8	10	3	7	1	4	41
合計	計	8	12	31	23	16	14	4	17	125
	男	1	1	8	3	8	0	1	7	29
	女	7	11	23	20	8	14	3	10	96

平成29年3月31日現在

※平均年齢：87.1歳で（男性88.7歳 女性87.7歳）

最高齢者は、男性で97歳、女性で103歳

■平均介護度：2.0（要支援を除く）

# グループホームふたばの森

## 総合目標及び課題

利用者ごとの潜在的な能力に働きかけ共同生活内での役割や主体的な活動を支援し認知症状の進行を穏やかにするように努めた。

重点目標及び課題	成果等
(1) GH稼働率の維持・向上のための取組	<p>① 年間を通して稼働率98.2%を目標とし維持・向上できるよう下記の健康管理・事故防止に努めた結果、実稼働率は96.8%だった。</p> <p>② 利用者ごとの摂食量・栄養バランス、水分摂取量が確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を行い健康管理に努めた。</p> <p>③ 体調悪化徴候時は、早期に受診を行い重篤化の回避に努めた。</p>
(2) 認知症ケアの実践（見直し）	<p>利用者ごとの24時間アセスメント・24時間シートを作成し利用者ごとの役割や生活習慣に配慮したケアの提供を行った。</p>
(3) 事業運用の安定化（スキルアップ（人材育成））	<p>① 運用業務・日常業務についてそれぞれの職員が役割と責任を持ち、職員間の連携を図ることで事業運用の安定化をはかった。</p> <p>② 認知症内部研修及びその他の外部研修に参加した。</p> <p>③ 研修に参加した職員が研修で学んだ内容をもとに事業所内で研修を行い専門知識の習得及びスキルアップをはかった。</p>
(4) 外出への取組	<p>① 外食や買い物等、利用者の意向をくみ取り、それに合わせ外出を企画・実行しました。</p> <p>② 定期的に季節行事（花見・紅葉他）、外出・散歩等の機会を設けて行った。</p>

職員研修参加状況(グループホームふたばの森)

月	日	内容	場所	出席者
4	27	県地域密着型サービス協会総会・研修会	松山	管理者1名
5	19	平成29年からのGH外部評価説明会	松山	管理者1名
5	28～31	平成28年度介護支援専門員更新研修	松山	介護職員1名
6	25	介護支援専門員更新(専門)研修	松山	介護職員1名
7	9～10	介護支援専門員更新(専門)研修	松山	介護職員1名
10	7～10	認知症介護実践者研修(第1期)	松山	介護職員1名
11	14～18	認知症介護リーダー研修(第2期)	松山	介護職員1名
11	24	認知症介護実践者研修(第1期)	松山	介護職員1名
12	7～9	認知症介護実践リーダー研修(第2期)	市内	介護職員1名
1	17	愛媛県認知症介護実践リーダー研修	市内	介護職員1名
1	24	認知症介護基礎研修	松山	介護職員1名
1	27	県認知症介護実践リーダー研修報告会	松山	介護職員1名

# GH利用者の概要

## (1)利用者の状況

平成29年3月31日現在

### 保険者別入居状況

保険者別	男	女	計
新居浜市	3	15	18
西条市	0	0	0
四国中央市	0	0	0
合計	3	15	18

地域密着型サービス事業所のため、保険者は新居浜市のみである。

### 在所期間の状況

期 間	男	女	計	比率(%)
20年以上	0	0	0	0.0
15年以上～20年未満	0	0	0	0.0
10年以上～15年未満	0	0	0	0.0
7年以上～10年未満	0	0	0	0.0
5年以上～7年未満	3	8	11	61.1
3年以上～5年未満	0	2	2	11.1
1年以上～3年未満	0	0	0	0.0
1年未満	0	5	5	27.8
合 計	3	15	18	100.0

今年度、新規入居者はなし。

### 年齢構成

区分	～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～	合計	平均年齢
男	0	0	0	1	1	1	0	0	3	83.0
女	0	0	0	1	1	6	4	3	15	88.9
合計	0	0	0	2	2	7	4	3	18	87.9

①最高齢者は、男性87歳、女性96歳で、最も若い利用者は、男性79歳、女性76歳である。

## 要介護度の状況

〔要介護度〕

介護度	年齢区分	自立	支援	1	2	3	4	5	合計	平均
男性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	1	0	0	1	3.00
	80～84歳	0	0	0	0	0	0	1	1	5.00
	85歳以上	0	0	0	0	0	1	0	1	4.00
女性	40～64歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	65～69歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	70～74歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	75～79歳	0	0	0	0	0	0	1	1	5.00
	80～84歳	0	0	0	1	0	0	0	1	2.00
	85歳以上	0	0	0	4	4	2	3	13	3.31
	男 性	0	0	0	0	1	1	1	3	4.00
	女 性	0	0	0	5	4	2	4	15	3.33
	合 計	0	0	0	5	5	3	5	18	3.44
	前年度実績	0	0	1	1	9	3	4	18	3.39

## (2)入退居状況

### 利用者状況

〔月別新規入居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	6
計	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	0	1	6

〔入居前住居〕

区分	在宅	病 院			介護施設			その他施設	合計
		一般病棟	精神病棟	療養病棟	介護療養施設	老人保健施設	特別養護老人ホーム		
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	3	0	1	0	0	0	0	2	6
計	3	0	1	0	0	0	0	2	6

〔新規利用者世帯状況〕

	単身	夫婦	未婚子同居	既婚子同居	その他	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	3	1	0	1	1	6
計	3	1	0	1	1	6

退居者状況

〔退居理由〕

	家庭復帰	入院継続	転居	死亡(施設)	死亡(病院)	合計
男	0	0	0	0	1	1
女	0	0	0	1	4	5
計	0	0	0	1	5	6

〔月別退居者〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
女	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	5
計	1	1	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	6

(3)日常生活動作状況・生活自立度・認知症の判定

日常生活動作の状況

〔利用者18名〕

項目	動作内容	男	女	計	項目	動作内容	男	女	計
移動	時間がかかっても介助なしに一人で歩く	2	7	9	入浴	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	1	1
	手を貸してもらするなど一部介助を要する	1	3	4		体を洗ってもらするなど一部介助を要する	1	6	7
	全面的に介護を要する	0	5	5		全面的に介護を要する	2	8	10
食事	やや時間がかかっても介助なしに食事する	1	7	8		着替	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	1	3
	おかずを刻んでもらうなど一部介助を要する	2	5	7	袖を通してもらうなど一部介助を要する		0	7	7
	全面的に介護を要する	0	3	3	全面的に介護を要する		2	5	7
排泄	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	0	1	1	整容	やや時間がかかっても介助なしに一人でできる	1	5	6
	便器に座らせてもらうなど一部介助を要する	1	6	7		タオルで顔をふいてもらうなど一部介助を要する	1	5	6
	全面的に介護を要する	2	8	10		全面的に介護を要する	1	5	6

## 日常生活自立度（寝たきり度）

[利用者 18名]

ランク J 生活自立	何らかの障害を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。	
	1 交通機関等を利用して外出する。	0
	2 隣近所なら外出する。	3
ランク A 準寝たきり	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。	
	1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。	7
	2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。	5
ランク B 寝たきり	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッドの上での生活が主体であるが座位を保つ。	
	1 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う。	1
	2 介助により車椅子に移乗する。	2
ランク C 寝たきり	一日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。	
	1 自力で寝返りをうつ。	0
	2 自力では寝返りもうたない。	0

## 認知症老人の日常生活自立度判定

[利用者 18名]

項 目	痴 呆 の 程 度	
正 常	認知症の症状無し	0
ランク I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	1
ランク II	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。	
	a 家庭外で上記 II の状態が見られる。	0
	b 家庭内でも上記 II の状態が見られる。	1
ランク III	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが時々見られ、介護を必要とする。	
	a 日中を中心として、上記 III の状態が見られる。	8
	b 夜間を中心として、上記 III の状態が見られる。	5
ランク IV	日常生活に支障を来すような症状、行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ常に介護を必要とする。	2
ランク M	著しい精神症状や問題行動やあるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする	1

全利用者のうち94.4%の利用者の方は、ランク III以上の認知症状が観察される。

## 受 診 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均
受診人数	10	16	12	16	12	12	14	12	12	12	12	9	149	12.4	0.4
受診回数	26	34	26	29	25	20	24	20	25	29	26	19	303	25.3	0.8

入居前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。

## 入 院 状 況

項目／月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	月平均	1日平均 入院人数
実人数	1	2	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	7	0.6	
延日数	8	33	26	0	0	4	0	0	6	0	1	24	94	7.8	0.3

## 行 事

実施月	1階ユニット (どんぐり)	2階ユニット (くるみ)
4月	花見 (池田池公園)	花見 (池田池公園)
5月	潮干狩り マイントピア芍薬見物	潮干狩り
6月	あじさい見物	あじさい見物 菖蒲見物
7月	外食 そうめん流し	外食 そうめん流し
8月	船木ふるさと夏祭り	元船木夏祭り
9月	いもたき 外食	いもたき
10月	太鼓台見物	太鼓台見物
11月	紅葉見物	紅葉見物
12月	クリスマス 外食 餅つき	クリスマス 外食 餅つき
1月	初詣	初詣
2月	節分	節分
3月	外食	外食